

2019(令和元)年度 事業報告書

社会福祉法人 日本キングス・ガーデン
指定管理

守谷市障がい者福祉センター ひこうせん

2019（令和元）年度 事業報告

はじめに

守谷市からの指定管理を受けて3期目、12年目の1年間でした。生活介護については、新たに3名のご利用者が加わりましたが、3名の方が、入所されるなどして利用終了となりました。引き続き、それぞれのご利用者の障がいや特徴にあった支援が出来るよう、個別支援に努めました。就労移行支援では、一年を通して、ご利用者はいませんでした。就労継続支援B型においては、2名の方が新規利用となりましたが、12月に1名の方が急逝されました。前日まで元気に通所されていましたが、突然のお別れでした。

リサイクル活動や、ポスティングなどの作業も継続して行い、よりご利用者が好んで行えるように、仕事の種類を増やしたまま継続しています。また、引き続き守谷市内やキングス・ガーデンでの催し物などで販売をし、地域の方々との交流を行なうことができました。

放課後等デイサービスは、特別支援学校の児童・生徒を中心にほぼ定員の人数でご利用いただいていたましたが、3月からは新型コロナウイルスの感染拡大防止の関係で特別支援学校も臨時休校となり、朝から開所するなどの変更を行ないました。当初、受入れをするように厚生労働省などからも通知がありましたが、予想以上に自宅で自粛する方が多く、ご利用する方は限られました。

相談支援事業においては、市内や周辺に相談支援事業所が一時増えましたが、相談支援専門員の退職などで休止する所があるなどして、担当ケースが増加しています。

I. 目標の評価

1. ご利用者のニーズに対応するプログラムの提供

(1) 生活介護事業

さまざまな障がいや特徴、ニーズがあるご利用者に対して、できるだけ個別に対応できるように個別支援計画に基づき支援をおこなった。ADLの維持・向上を目指したり、カレンダーの作成やさそり織りなどの作成なども行った。外出や外気浴も気候や気温などを考慮して、積極的に行うようにし社会との関わりも大切にした。また、胃ろうや呼吸器などの医療的ケアも必要な方へ引き続き支援している。12月に入所された方と、自宅で転倒、骨折し年度内休みの方がいたが、年間を通して、ほぼ9割以上の利用率であった。

延べ利用者数 3,652名、1日平均利用者数 14.2名、平均利用率 94.7%(+1.3p)

(2) 就労移行支援

年間を通して、ご利用者はいなかった。ひこうせんの地域での役割として、比較的、支援が多く必要な方の利用が多く、就労に関しても、就労継続B型の利用希望はあったが、就労移行のご利用には繋がらなかった。引き続き、ご利用者が来ていただけるように努力したい。

(3) 就労継続支援 B 型

昨年に引き続き、地域の事業所からの軽作業を頂く。リサイクル活動、ポスティング、清掃作業など、これまで行った来たことが着実に定着し、ご利用者も、慣れた作業が多くなったことで、気持ちの変動も少なく、落ち着いて作業を行っている。引き続き、多くの作業に対して、ご利用者にあった作業を提供することに努力したいが、年度末より新型コロナウイルス感染症の影響が出ており、北守谷公民館の実質休館による自動販売機の売上の低下、金属相場低迷による、リサイクル活動の収入減少、外部との接触の自粛による清掃作業の休止など、工賃に影響が出始めている。また、仕事だけではなく、楽しんでも通所できるように、外食やお楽しみ会などの行事の企画も行ったが、年度後半は新型コロナウイルスの影響で、外食は避け、センター内でのお楽しみ会やお弁当などに変更した。工賃の向上はもちろんであるが、ご利用者がやりがいのある作業を提供できるように努力した。

延べ利用者数 2,292 名、1 日平均利用者数 8.9 名、平均利用率 89.2%(-3.2p)

(4) 放課後等デイサービス

個別的な療育に力を置き、安全な居場所を作れるよう整備をした。トラブルなく、早く環境になれるように支援した。創作活動や遠足なども企画し、楽しんで他の児童とも遊べる環境作りをした。また、例年のように保護者懇談会を実施した。アンケート調査と、自己評価の公表などを厚生労働省のガイドラインに即し行った。

3 月からは、新型コロナウイルスの影響で特別支援学校や市内の小学校が臨時休校となり、急遽、朝からのお預かりになるなど、大きな変更を強いられた。当初、家族の仕事の関係などで、利用が増えるかと予想したが、感染拡大を危惧する保護者が多く、利用を自粛し、自宅待機する方が多くなった。

延べ利用者数 2,078 名、1 日平均利用者数 8.1 名、平均利用率 89.8%(-11.2P)

(5) 相談支援

基本相談や計画相談を通して、地域の障がいを持った方に対して、より安心した生活が出来るように努めた。また、地域の事業所とも連携できるような体制を心がけた。昨年度開設した、障害児相談支援も希望者が多く、登録者の数が増えている。

※ (1) ～ (4) の利用率は、「利用延べ人数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100 = 利用率 (%)」で算出。

2. ご利用者が地域で安心して暮らしていけるような支援

(1) 障がいを持った方に対する地域の理解を啓発する

① ひこうせんまつりの開催

今年度もひこうせんまつりの開催に向け、数か月前から、ステージ発表やボランティアの方々の協力依頼等を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得なかった。約 1 ヶ月前での判断だったため、関係する方々には早めに連絡

することができ、中止による大きな混乱は見られなかったが、ご利用者はみな、残念そうであった。

②ボランティア

年間を通して、ご利用者の作品の洋裁、フラダンスや大正琴等のボランティアの方にご協力いただき、職員だけでは行えない面について、ご利用者を楽しませていただいた。

③実習等の受入れ

実習生については、地域の中学生の生徒の受入れを行なった。また、引き続き、特別支援学校の教員の実習を受け入れた。

④守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会（守谷障サ連）

守谷市内の障がい福祉サービス事業所の集まりである、守谷障サ連に施設長が理事として参画し、事業所マップの作製や、講演会形式やグループワークでの研修に参加した。

⑤ナイスハートふれあいフェスティバル 2019（茨城県主催）

今年も茨城県心身障害者福祉協会会員のお手伝いとして、12月5日～9日に茨城県立県民文化センターで行われた、「ナイスハートふれあいフェスティバル 2019」美術展に施設長が参加した。

Ⅱ．基本的活動目標の評価

1．利用者サービスについて

（1）個別支援計画に基づいたプログラムの実施

個々のご利用者に対して、個別支援計画を作成し、それに基づいたプログラムを実施することにより、個々の能力や生活意欲を高め、安心した生活を支援することに努めた。

（2）人格尊重の理念を基に、利用者が主体の支援を目指す。

言葉によるコミュニケーションが取れないご利用者に対して、文字盤や絵カードの使用や目の動きなどにより、できるだけ、ご利用者が主体的に選択できる環境を作るように支援を行なった。

（3）地域との連携をとりながら、社会参加をすすめる。

市内で行われるイベントへの出店やひこうせんまつりの開催などにより、地域社会の一員となれるように参加をした。引き続き、ひこうせんでのペットボトル・空き缶の回収、市内公民館などへの回収、リサイクル活動を行なった。

（4）保健、医療、福祉、教育の他機関と緊密な連携を計る。

ご利用者は、地域で在宅生活を送っている方々ばかりであり、独居の方や家族のサポートが十分でない方もいるため、病院受診時の状況、併用している他の事業所との連携を取った。また、児童については、特別支援学校の教員や保護者との連絡等、他機関、家族と緊密な連携を計るように心掛けた。

3. サービスの向上の評価

(1) 支援の統一

- ①法人の基本理念や基本方針について、職員会議や申し送りの場などで職員に周知行った。
- ②個別支援計画を支援の共通の認識のもとに実践することを心がけた。
- ③内部・外部の研修へ参加し職員会議を通して他の職員への伝達講習も行ない、知識を共有した。

(2) ご利用者等の要望の把握及び実現

- ①ご利用者、家族との面談を行ない、各担当職員の意見も取り入れ、利用者別の個別支援計画を策定した。
- ②楽しみを持って通所できる場の提供
外出等の機会を設け、気分転換や社会交流の場を持つ。音楽やダンスなど、ボランティアの方に協力頂き、みんなで楽しむ時間を共有する。
- ③施設や職員への要望に関しては、申し送りや班のミーティングを通して円滑に対応を図った。
- ④運営委員会、家族等の意見・要望

家族からの要望：散歩やポスティングなどで外を歩く機会が多いと思う。車が歩道に突っ込む事故もあった。交通事故に気を付けてほしい。

回答：市役所からもすぐに散歩ルートなどの確認があった。再度、危険個所の確認やより、安全なルートの確認を行なった。

⑤守谷市指定管理モニタリング

本年度も、「守谷市指定管理者モニタリング」を行った。総合評価シートによる自己評価と、施設利用の満足度調査を実施した。

ご利用者・家族への満足度調査では、各サービスの合計の「満足」が 73%、「普通」が 27%、「不満」が 0%であった。中でも、「職員の対応」については、「満足」86%、「普通」13%と高い評価を頂くことができた。集計し、守谷市社会福祉課へ報告した。

⑥第三者評価結果（評価機関 （株）アミュレット）

○特に良い点

- ・働き易い職場づくりに向けて法人全体でバックアップ体制を築いています。法人内に事業所内保育所の開設、職員のスキルアップに向けては資格取得や研修の受講の奨励、介護福祉士実務者研修事業など、資格取得に向けたバックアップ体制を強化しています。
- ・利用者への支援では、特性や状況に合わせて各班に分かれ、利用者のペースや状態に合わせて各種活動に参加できるように取り組んでいます。
- ・法人のバザーやお祭り、運動会への参加を通して多様な活動に参加できるように取り組むほか、事業所主催の「ひこうせんまつり」を毎年開催し、利用者が取り組んだ一年間の成果発表や利用者が創作活動で作った作品を販売しています。

○さらなる改善が望まれる点

- ・アセスメントの見直しも定期的実施することを期待します。

【利用者アンケート】

- ・生活介護 : 調査対象者 24 名、有効回答者数 16 名 (回答率 66.7%)
- ・就労継続支援 B 型 : 調査対象者 11 名、有効回答者数 11 名 (回答率 100%)
- ・放課後等デイサービス : 調査対象者 31 名、有効回答者数 18 名 (回答率 58.1%)

※利用中の事業所を総合的に見て

	大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満	無回答
生活介護	7	5	4	0	0	1
就労継続 B 型	7	2	0	2	0	0

	よい	ややよい	どちらともいえない	ややよくない	よくない	無回答
放課後デイ	17	1	0	0	0	0

(3) 利用者のトラブルの未然防止及び対処

- ①朝と夕方の申し送り、班ごとのミーティング、リーダー会議などで検討・討議などを行ない、実際の支援に生かした。

- ・申し送り (毎日)

朝 : 欠席者・送迎の確認、各班の活動予定内容、注意事項等

夕 : 各班の活動で、ご利用者について特に優先的に情報共有した方が良い事項の発表・家族からの連絡・職員間の連絡事項等。ヒヤリ・ハット、事故などが起きた場合は、どのように対応していくかを検討した。

- ②施設内におけるヒヤリ・ハット、事故事例については、報告書の提出を義務付け、報告内容の周知を職員会議、リスクマネジメント委員会等を通し、全職員で共有するとともに、個別事案について、評価・分析・検討を行い、リスクを予測し回避することに努めた。

- ③虐待防止について : 虐待防止委員会を設置し、検討した事項を職員会議で職員へ周知した。日常支援の中でご利用者への人権やプライバシーへの侵害がないか、セルフチェックシートを使用し確認をした。

- ④身体拘束について : 身体拘束廃止委員会を設置し、家族の同意を得たうえで一時的に身体拘束をしているご利用者の現在の拘束状況の確認、その廃止、時間の短縮についての検討を行ない、検討した事項を職員会議で職員へ周知した。

- ⑤苦情 1 件 放課後等デイサービス ご利用者の母より

頬に傷があったが、迎えの際に報告がなかった。気がついていないのか、ちゃんと見ていてくれるのか。との苦情。

職員に確認したところ、他の児童と遊んでいた際に、その児童が頬をたたいてし

まった。すぐに職員が間に入り、たたかれた頬を確認したが、明らかな傷は確認できなかった。職員間の申し送りも悪く、お迎えの際にトラブルを家族へ報告していなかった。傷は確認できなくても、他児とのトラブルや、たたかれたことを家族へ報告するべきであった。

(4) 運営委員会

センターの健全かつ適正な運営を図るため、運営内容について意見を伺った。新型コロナウイルスの影響で3月の委員会は中止とし、次年度の事業計画等の資料を各委員へ送付した。開催日と主な内容は以下の通りである。

- 6月 25日 前年度事業報告・決算報告、事業の現状、利用者人数の変化についての報告等
- 10月 29日 上半期 事業・会計報告、利用者数の推移等
- 3月 (新型コロナウイルス感染拡大予防のため郵送にて報告)
当年度事業進捗状況について、次年度事業計画

主な質問・意見

質問

Q. ひまわり班の活動での工賃はどのように利用されていますか？

A. 受渡しは、未締め 15 日現金払いになります。使い道に関しては、ご自身で欲しいものを買ったりしているようです。お金としての価値についての理解はそれぞれだと思いますが、働いた対価としての喜びは皆さん持っておられます。

Q. 給食試食会の反応はどうでしたか？

A. 今までは、ケアハウスから給食を提供されていたものの、運用が変更になり冷凍の食材専門業者より購入し、解凍して提供しておりますが、残飯も減り保護者からも高評価でした。栄養士にメニューを考えてもらって、こちらで刻むなどの加工をして提供しております。

Q. AEDの研修が実際の機器でできないと思いますが、どのように行いましたか？

A. 看護職員がAEDの機器と同様のものを紙などで作成し、アナウンスの声も入手してくれました。AEDが判断し、アナウンス通り行えば大丈夫なので、躊躇せずに使用して大丈夫と感じました。

Q. ひこうせんは台風の際の避難所としては利用できますか？

A. ひこうせんでは、緊急時用として 50 人分の食事を 3 日分備蓄しております。ここで一時的に過ごせる体制はとっておりますが、裏が鬼怒川のため大雨などの後は避難施設としては適していません。

3. 体験学習やボランティア等の受入

事業所の透明化の観点から、学校等の体験学習、各種学校等の実習生の受入れを行ない、また、各種ボランティアに協力を頂いた。

○中学校職場体験実習

守谷市立けやき台中学校職場体験実習 8月 29日 - 30日 4名

○特別支援学校 教員研修

伊奈特別支援学校 教員研修 8月 9日 2名

○ボランティア

大正琴演奏 5月 27日 1回

フラダンス訪問 7月 31日 1回

洋裁 ご利用者の作品が出来上がった際 随時

写真サークル写遊 随時、ご利用者の写真の作品の完成に向けてのサポート 随時

本の読み聞かせ 6月 12日、8月 22日、2月 21日 3回

○施設見学

守谷市市議会議員 見学 2月 14日 5名

4. 情報公開

年4回 ひこうせんだよりとして、センターでの行事などについて掲載した広報誌を作成し、ご利用者宅へ配布した。

5. 緊急対策

(1) 防災・防犯

防災委員会を中心に毎月総合訓練や避難訓練等を実施した。また、非常時の為にご利用者、職員の3日分の食料、飲料水を備蓄し、その管理を行なった。(実施内容については防災委員会にて記載)

12月 16日 常総広域消防本部 守谷消防署の立ち入り検査を受けた。指摘事項はなかった。

(2) 緊急時対策

9月 9日(月) 台風15号通過。関東地方は早朝に通過する。

10月 12日(土) 台風19号通過。閉所日であったため、直接的な被害はなかった。

(3) 感染症の予防

感染症委員会が中心となり、特に冬期に感染症への対策と新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応を行った。

○主な対策・対応

- ・スタンダードプリコーションの実施。
- ・各活動室への空気清浄・加湿器の設置
- ・朝、活動前の体温測定
- ・送迎車内の消毒(インフルエンザ注意報発令時)
- ・家族との体調の情報共有

6. 職員の研修、健康管理等

(1) 職員研修

職員の専門性の向上を目的に研修を実施した。サービス管理責任者研修、相談支援専門員研修、強度行動障害支援者養成研修等、外部機関主催の研修に参加した。

年度ごとに自分の興味のある事柄についてグループを作り、勉強会として、1 年を通して研修し、年度末に職員間で発表することができた。

(2) 職員の健康管理

①健康診断：年 1 回、健康診断を実施した。その結果をまとめ、次年度はじめ、要再検、経過観察者を中心に、常総地域産業保健センターより医師を派遣して頂き保健指導をしていただく予定。

②インフルエンザの予防接種の実施：インフルエンザの感染拡大期を前に職員へ接種を行なった。

(3) 職員数

	正職員	準職員	契約職員	嘱託（医師）	合計
2019（H31）4/1 付	19 名	0 名	10 名	1 名	30 名
2020（R2）3/31 付	20 名	1 名	9 名	1 名	31 名

※他 正職員 1 名 育児休暇中

(4) 有資格等状況（重複者あり）

【国家資格等】

	介護福祉士	看護師	社会福祉士	作業・理学療法士	栄養士	介護初任者研修	小計	合計
正準職員	13 名	2 名	0 名	3 名	0 名	4 名	22 名	47 名
契約職員	5 名	1 名	0 名	0 名	1 名	2 名	9 名	10 名

【障がい福祉サービス関連資格・研修】

	サービス管理責任者	相談支援専門員	児童発達管理責任者	強度行動障害（基礎）	強度行動障害（実践）	医療的ケア研修	就労従事者研修	小計
正準職員	7 名	4 名	3 名	6 名	3 名	2 名	4 名	29 名
契約職員	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

(5) 職員 入・退職

入 職：生活支援員 3 名、契約職員から正職員へ変更 1 名、調理員 1 名

異 動（入職）：生活支援員 1 名

異 動（他事業所へ）：生活支援員 1 名

退職：生活支援員 1 名（契約職員）

(6) 年次有給休暇取得率（取得日数/付与日数＝取得率（％）） 年間公休 105 日

正・準職員 81.1%、契約職員 66.3% （いずれも繰越分取得含む）

7. 施設設備管理

センターが開所し 26 年が経ち、電気設備を中心に不調箇所が目立ち、機材類の老朽化も目立ってきた。また、給食の提供方法の変更に伴い、夏季の厨房の暑さ対策が課題となった。守谷市と話し合いの元、厨房にエアコンを設置した。また、ガスコンロや冷蔵庫もセンター開所当時からの物であったため、買い替えを行った。

年末から、増築棟エアコン室外機が停止するトラブルが続いた。温度センサーの誤感知とのことで交換したが、その後も同じエラーにより、停止が頻発した。再調査により、コンプレッサーの異常で、交換が必要となったが、工事費が高額であるため、守谷市に修理の手配をお願いしている。

マイクロバスのクーラーが故障し、また、運転手の求人もハローワークや人材派遣会社に依頼したが、見つからないことから、使用しない（できない）方向となった。代わりに、10 月よりミニバンタイプの送迎車 2 台をリース契約し、支援員が運転する形で運用を開始した。マイクロバスでは入りにくい細い路地にも入りやすく、送迎ルートを変更し活用している。また、日々のメンテナンスの為、以下の点検・整備等を実施した。

月	日	内容	月	日	内容
4 月	27 日	定期清掃	12 月	6 日	日産リフト車 点検
5 月	10 日	日産リフト車 定期点検		11 日	空調点検
	24 日	トヨタ貨物車 車検		19 日	車庫裏倒木（折れた枝）伐採処理
	29 日	害虫駆除	1 月	8 日	ブラインド修理（みのり活動室、食堂）
	30 日	トヨタ リフト車車検 2 台		11・3/17	外壁・屋根塗装
6 月	12 日	空調点検		17 日	本棟 ガスメーター定期交換
	21 日	日産リフト車 バックドア油圧バー修理		20 日	増築棟 ガスエアコン温度センサー取り換え工事
	26 日	グリストラップ清掃		20 日	軽自動車 点検
7 月	12 日	軽自動車 車検		27 日	軽自動車 リアダンパー交換
	19 日	自動ドア 点検		29 日	消防設備 点検
	27 日	定期清掃		30 日	害虫駆除
	27 日	厨房 エアコン取付工事	2 月	5 日	マイクロバス引き上げ
	29 日	害虫駆除		15 日	厨房 ガス管工事・ガスコンロ交換
8 月	30 日	日産リフト車 車検	3 月	2 日	自動ドア 点検
9 月	19 日	害虫駆除		5 日	厨房・みのり班 冷蔵庫搬入
	20 日	渡り廊下 支柱塗装		6 日	日産リフト車定期点検
	28 日	駐車場垣根剪定		12 日	就労班食堂 ロールカーテン修理
10 月	4 日	ミニバンリース車 納入		16 日	避難誘導灯交換（増築棟）
	26 日	定期清掃		20 日	トヨタ リフト車タイヤ交換
11 月	5 日	自動ドア点検		30 日	害虫駆除
	15 日	トヨタ リフト車点検 2 台			
	27 日	害虫駆除			
	29 日	トヨタ貨物車 点検			

身体拘束対策委員会

○身体拘束を、現在行っているご利用者について、その拘束が本当に必要なものか（切迫性、非代替性、一時性）、適切な身体拘束に当たるのかを検討した。やむを得ず身体拘束を行うときの手続きについて職員会議で報告を行った。

<定期的な拘束>

A 様：週 5 回利用。体の緊張が全般的に高く、トイレ内のベッドでのおむつ交換の際に、不随意運動により左手が口にいきそのまま噛んでしまう事故がないように、その間のみ左手にミトンを装着している。

経過報告：年間を通じてミトンを取ることはできなかった。しかし体調が良く、緊張が低めと思われる日は早めにミトンを外すなど、時間の短縮を目指した。

B 様：週 5 回利用。予期せぬてんかん発作が頻繁にあり、身体が危険にさらされる可能性が著しく高いと判断し、安全確保・転倒防止のため、椅子に座っている時と車椅子に乗車している時に、椅子と体幹をマジックテープのベルトにて固定し、立ち上がりを抑制している。

経過報告：突然の立ち上がりや発作に対応できるよう、支援員が必ず隣にいる措置をとっている。

C 様：週 3 回利用。活動中は車椅子に乗っているが、昼食時は車椅子から椅子に移乗し椅子にて食事を摂ってもらっている。その際、転倒・ずり落ち防止のため、食事中は椅子にマジックテープ状になっているベルトを椅子と体幹に装着した。

経過報告：腰につけている安全ベルトについてお母様に実際に椅子に座っている状態と、椅子を移動中の様子を見て頂き、「ひじ掛けを持って移動しているし、椅子からずり落ちることもなく、ご自宅でもベルトを使用していない」との事で、今後は昼食時のベルトは使用なしとなる。（7 月 24 日解除となった）

<定期的な拘束>

D 様：インフルエンザ予防接種の際、支援員 3 名と看護職員 1 名が徒手的に体を抑える拘束を行なった。拘束は行なったが、接種時に特に活動が激しくなることはなく、その時に見合った力で拘束を行なった。

※全て同意書受領済み

身体拘束対策委員会 実施状況

回数	月	日	主な内容
1	4月	8日	現在の拘束を解除する事が出来るかの検討をする
2	5月	2日	M様の身体拘束に関する同意書を職員会議で周知する
3	6月	3日	身体拘束の弊害について職員会議で周知する
4	7月	3日	廃止に向けた5つの方針を読み上げる（日本看護倫理学会 身体拘束予防ガイドラインから一部引用）
5	8月	1日	Y様の身体拘束解除について職員会議で周知する
6	9月	3日	身体的拘束の定義の確認について考察し、事例を上げ検討する
7	10月	3日	身体拘束に関する同意書書式について考察し事例を上げ検討する
8	11月	6日	スリーロックについて考察し事例を上げ検討する
9	12月	6日	緊急時の身体拘束について考察し事例を上げ検討する
10	1月	9日	スピーチロックについて考察し事例を上げ検討する
11	2月	6日	身体拘束の弊害について職員会議で周知する
12	3月	11日	身体拘束「これは拘束なのか？」について考察

虐待防止委員会

○障がい者への虐待防止について意識・認識の向上を図り、虐待防止に努める

- ・虐待の定義や種類について、再度資料を配布し、職員への周知をおこなった
- ・事例を提示することで、実際に起きた虐待の内容の確認をおこなった

虐待防止委員会実施状況			
回数	月	日	主な内容
1	5月	12日	今後の方向性を決める
2	6月	12日	事例検討 (実際に起きた虐待をネットからだしてなぜ虐待につながってしまったのかを話し合った。)
3	7月	11日	虐待が起きてしまう原因について
4	8月	11日	虐待が起きてしまった時の対処法について
5	9月	2日	虐待のグレーゾーンについて
6	10月	10日	強度行動障害について
7	11月	1日	障がい者に対しての虐待を守るために私たちが出来る事
8	12月	6日	ネグレクトについて
9	1月	6日	現在の虐待の状況について
10	2月	1日	虐待防止チェックリスト (職員会議で皆に配布)
11	3月	3日	30年度県内の虐待の状況について

まとめ

毎月しっかり委員会を開くことができた。虐待のグレーゾーンでは、普段の会話の一部でも虐待のグレーゾーンになってしまうこと、それがエスカレートすることで、虐待になってしまうこと。1つ1つの声掛けに気を付けて支援をしていかなければ、すぐに虐待につながってしまうことを学んだ。

リスクマネジメント委員会

活動報告

ヒヤリ・ハット・事故報告書の提出管理を行い、リスク対策会議の開催を指揮した。リスク対策会議は、班内での事例は班ミーティングで行い、事業所全体の事例に関しては申し送りの場で行なった。

今年度は大きな事故やケガは減少したが、1件、ご利用者が昼休みの時間中に、気がつかないうちに、施設外へ出てしまうことがあった。幸いけが等無く、外出していた支援員が発見した。その後、自動ドアのブザーの設置や支援員の見守り位置の改善、更なる意識の向上をはかった。

その他、忘れ物や送迎ミスなど、ご利用者やご家族にも迷惑をかけてしまったケースもあり、日々の報告、連絡、相談の更なる徹底が求められる。リスクマネジメント委員会の開催は毎月の職員会議で実施し、当月にあった事例とそれに対する対策を周知・検討した。

ヒヤリ・ハット、事故報告 内容別 件数

	ヒヤリ・ハット	事故	計
他害行為	8	0	8
物損	4	0	4
支援中のけが等	0	0	0
転倒	8	0	8
送迎(車)関係	13	0	13
薬関係	3	0	3
給食関係	2	0	2
紛失	1	0	1
返却忘れ	5	1	6
その他	12	0	12
合計件数	56	1	57

リスクマネジメント委員会

回数	月	日	主な内容
1	4月	12日	一ヶ月間のヒヤリ・ハット、事故の事例報告と対応策の検討・周知、徹底
2	5月	17日	
3	6月	14日	
4	7月	12日	
5	8月	9日	
6	9月	13日	
7	10月	18日	
8	11月	15日	
9	12月	20日	
10	1月	17日	
11	2月	14日	
12	3月	13日	

感染症対策委員会

<目的>

- ・感染症の早期発見、迅速な対応に努める
- ・感染症の流行状況を情報収集し、周知、注意喚起に努める
- ・流行状況に合わせた感染対策を講じ、センターにおける感染症の発症予防、発生時の適切な対応に努める

<内容>

- ・感染症の対応マニュアルの作成、見直し、更新
- ・インフルエンザの予防接種者の把握
- ・冬季は感染性胃腸炎、インフルエンザ等の流行情報を随時確認し、注意喚起行う
- ・環境整備（清掃、消毒）の促進
 - ※インフルエンザ警報発令時は、朝夕の清掃、職員の検温の実施の指示
- ・感染症、季節性の感染症の流行状況を確認し、職員への周知
- ・センターにおける感染症罹患人数の把握
- ・感染症発症時の対応の検討、助言
- ・職員会議にて、感染症についての知識や、対応方法について資料を用いて周知行う

各月の全職員に対する感染症についての基礎知識及び対策等の周知の実施

※毎月資料作成、配布、職員会議にて発表実施。

月	テーマ	内容
4月	感染対策とは	なぜ感染対策が必要か、基礎知識の周知。
5月	溶連菌感染症について	基礎知識、症状について周知。
6月	熱中症とは	熱中症の症状、対応についての周知。センターでの熱中症対策について書面で配布。
7月	夏風邪について	夏風邪についての基礎知識、及び予防法の周知。
8月	熱中症について②	熱中症になりやすい人、環境による暑さ対策のポイント、脱水チェックなど
9月	マイコプラズマ肺炎、RSウイルス感染症、水痘について	マイコプラズマ肺炎、RSウイルス感染症の基礎知識に関して周知。これから感染症が増える季節なのでスタンダードプリコーション徹底の呼びかけ。水痘にり患したご利用者がでたため、基礎知識、空気感染などについての説明。

10 月	インフルエンザワクチンについて	インフルエンザワクチンの基礎知識（有効性、持続時間、接種回数、接種が適切な時期、なぜ接種しても罹患するのか等の周知。
11 月	インフルエンザについて	インフルエンザの基礎知識、感染対策、手指消毒の有効性と必要性の周知。
12 月	ノロウイルスについて	ノロウイルスについての基礎知識、吐物処理の方法の確認、センターでのマニュアルの確認、周知。
1 月	冬の感染症について	冬になぜ感染症が流行するのか、一番多い感染経路、咳エチケット、免疫力低下について周知。
2 月	新型コロナウイルスについて	新型コロナウイルス感染症についての情報共有。
3 月	新型コロナウイルスについて②	新型コロナウイルス感染症についての最新の情報の共有。

各月の感染症罹者の人数報告

・2019 年

- ・4 月 手足口病 3 名（職員家族） インフルエンザ 2 名（職員家族・御利用者家族）
- ・5 月 なし
- ・6 月 結膜炎 1 名（利用者） 胃腸炎 1 名（職員家族）
アデノウイルス感染症 1 名（職員家族） 流行性角結膜炎 1 名（職員）
- ・7 月 ウイルス性胃腸炎 1 名（利用者） ヘルパンギーナ 1 名（利用者家族）
手足口病 1 名（利用者家族）
- ・8 月 溶連菌感染症 1 名（職員家族） 水痘 1 名（利用者）
- ・9 月 インフルエンザ 1 名（職員家族）
- ・10 月 なし
- ・11 月 インフルエンザ 1 名（利用者家族）
- ・12 月 水痘 2 名（職員家族） インフルエンザ 5 名（利用者 3 名・職員家族 1 名・利用者家族 1 名） 結膜炎 1 名（職員）
- ・2020 年
- ・1 月 インフルエンザ 2 名（職員・職員家族）
胃腸炎 1 名（職員家族）
- ・2 月 なし
- ・3 月 なし

防災委員会

防災・防犯

安全で安心して過ごせる環境を提供するため、総合消防訓練、災害対応訓練等を実施した。また、非常時の為にご利用者、職員の3日分の食料、飲料水を備蓄し、その管理を行った。

消防・避難に関する消防計画は、毎年度見直しをおこない、消防署と市役所へ提出している。危機管理関係では、そのほかに不審者侵入時の対応マニュアル、水害時の避難マニュアル等を作成している。

訓練は原則毎月、消防署に届を提出し実施。火災や地震、水害想定避難訓練や緊急連絡網訓練、非常食の炊出し訓練を実施している。

送迎等の交通事故の際の緊急時の連絡は、各送迎車内と事務所に「緊急時対応マニュアル」を携帯、掲示している。災害や緊急時の場合の連絡として、職員の連絡網は採用や退職があった場合に職員に更新して配布し、ご利用者への連絡先一覧は、管理者、リーダーなど連絡する役割のものが必要時に携帯し、事務所にも置き、担当の利用者に、個別に連絡するようにしている。

2019（令和元）年度 防災・非常時訓練

No	月	日	訓練内容	利用者人数	職員人数
1	4月	30日	地震想定避難訓練	24	20
2	5月	31日	総合訓練	21	15
3	6月	19日	連絡網訓練	-	28
4	7月	29日	総合訓練	28	16
5	8月	28日	総合訓練	31	22
6	9月	30日	非常食炊出し訓練	24	21
7	10月	30日	水害想定避難訓練	25	14
8	11月	27日	地震想定避難訓練	20	18
9	12月	25日	総合訓練	29	21
10	1月	29日	総合訓練	23	19
11	2月	25日	地震想定避難訓練	21	20
12	3月	31日	総合訓練	28	23

生活介護　みのり班（主に身体に障がいのある方）

主に身体に障がいのある方に食事、排せつなどの介護、身体能力、日常生活能力の維持、向上を目的に必要な支援を行なっています。

《目標》



「それぞれの個性を生かし、外部に視野を向けながら健康的に楽しく過ごそう」

1. ご利用者それぞれの体質に応じた健康管理・維持に努める
2. 個性を生かした作品づくりを行い、自己表現に努める
3. 人や社会との関わりを持つ

I 支援計画に基づいた活動の報告

1. 日常活動状況について

①個別活動について

リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ROM エクササイズ ・歩行練習 ・作業療法士によるリハビリ
室内活動	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー製作 ・作品制作（さをり織り・ブリヲ織り・貼り絵・写真など） ・紙すきによるはがき作り ・ペットボトルつぶし、ラベルはがし作業 ・温足浴（1・2月） ・外気浴（3～10月） <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">   </div>

評価	<p>個性を生かした創作活動として、貼り絵・手作りのジェルキャンドル・ブリヲ織り等の作品を掲載したカレンダーの制作を行った。カレンダーは 100 部制作しイベント等で販売を行い完売となった。</p> <p>また、天候の良い日は、日光浴を兼ねて季節感を味わいながら、30 分～45 分程度外気浴を実施。外気浴中、道に落ちているごみを拾う活動も行い地域貢献に勤めた。そのごみの中に埼玉県の小学校が創立記念行事で飛ばした風船があり、ご利用者で作った紙すきによる手作りはがきを用いて返信し、他県との交流も図った。</p> <p>寒い時期に入ると、足浴を行い、足先を温めて末梢神経を刺激し、血液の循環を促すことを目的とし健康維持にも努めた。</p>
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、守谷市社会福祉協議会への訪問（2 ヶ月に 1 回） ・買い物 ・地域のお祭りの参加 （あやめまつり・北守谷公民館まつり） ・外食（守谷サービスエリア） <div data-bbox="467 958 756 1173" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1077 958 1366 1173" data-label="Image"> </div>
評価	<p>外出を意識して 2 ヶ月に一度、市役所、社会福祉協議会への訪問を行った。また、目標である「人との関わりを持つ」ということについては、行事等で必要な物を買いにし出掛けたり、外気浴・まつり等で地域の方とあいさつをしたりして交流をした。</p> <p>毎年恒例の外食は、守谷サービスエリア上り（パサール守谷）へ出掛けた。以前は、事前にご利用者が召し上がる食事をご家族に聞いていたが、今年は「選ぶ・決める」を目的に、当日その場でご利用者にメニューを見ていただき、複数ある店舗から食べたいメニューを選び決め、直接現金で支払っていただいた。しかし、ご利用者がその場でメニューを決めることが本当にできたかどうかは分からない。ご家族から指定されたメニューとその食べ方が連絡帳に記載されていたり、事前にご家族と来てメニューを決め予行練習をされていたりしていた。ご利用者が実際、何を選ぶか、選べるのか、はたまたご本人が困らないようにということでご家族がやって下さったのではないかと感じた。しかしながら直接現金で支払い、購入することができたのは、意義があった。</p>

②行事について

種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ すいか栽培 ・ ジェルキャンドル作り ・ バスボム作り ・ バスボム体験会 ・ 調理（ハンバーグ作り） ・ 風鈴作り ・ 石けん作り
評価	<p>今年度のご利用者全員が収益を使用した作品を作り持ち帰っていただけるよう、2 か月に 1 回、手作りによる製作を企画した。目標の一つである「個性を生かした作品づくりを行い自己表現に努める」ことを意識して、「選ぶ・決める」ことを目的に、数種類の色や素材・香り等を一つ一つ触れたり嗅いだり音を出したりして、様々な方法で選び決めていただいた。</p> <p>特にジェルキャンドル作りでは、ご家族と一緒に北守谷公民館工作室にて製作した。工程を模造紙に示し、ご家族と一緒に製作することでコミュニケーションの取り方や支援方法を共有出来たり、支援員の支援方法や雰囲気を見ていただいたり、情報交換ができたことは支援の糧となった。</p> <p>また、今年度 2 回目となる調理は、ご家族と合同でハンバーグを作った。ご利用者へ調理の役割を事前に伝え、その役割を全うする責任感と達成感を感じていただけるよう、スケジュール・手順を作成しそれを職員が把握し動くことでスムーズにご利用者に関わり、ご利用者お一人お一人が決められた役割を行うことができた。</p>

Ⅱ 全体の状況変化（ご利用者の）について

- ・ 日常生活で使用する言葉を自発的にジェスチャーや文字盤等で伝えられるよう、日々の生活を通して用い、積極的に人に伝えようとする姿勢がみえた。
- ・ できる限り自立に沿う支援を意識し、声掛けを最小限に、ルーティンを取り入れ自ら動ける環境を整えたことにより、ルーティンに従い自発的に行動することができた。
- ・ 1 日ベッドで過ごされている全介助のご利用者に対しては、楽器を使った聴覚刺激や、体をさするなどの触刺激等、感覚刺激をメインにコミュニケーションを取り、時折笑顔での返事や、腕を動かすなどの反応があった。

Ⅲ その他 健康・安全管理について

- ・緊張の強いご利用者の食事介助は自宅での食事形態と同様の極刻みにし、誤嚥防止に努めた。
- ・車椅子への移乗の際は十分に安全を確認した上で、出来る限り自力で行なった。車椅子操作でも同様に、安全を確認して支援員が介助する必要のない場所では、ご本人が操作して自由に移動をした。

Ⅳ 今後の取り組みについて

- ① 個別活動においてご利用者の個性を尊重し、ご利用者及びご家族の希望に沿った活動を行っていくことを続ける。個々の希望を個別活動に取り入れる。
- ② 障がいの程度が重いためにできる活動が限られるご利用者に対し、同じ活動に飽きがないように、活動内容を充実する工夫をする。
- ③ 外出は夏冬において体調管理とのバランスが難しい時期もあるが、できる限り負担を減らすことでご利用者の希望を実行していきたい。ご本人、看護職員との打ち合わせを密にし、負担が少なく外出できるプランを検討する。

生活介護 ねっこ班（主に知的に障がいのある方）

知的・精神に障がいのある方へリサイクル作業、創作活動の機会を提供し、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行なっています。

《目標》

「基本的な日常生活力を高め、周囲のサポートを受けながら社会生活に適応でき、自分らしい生活を送る」

1. 活動を充実させる
2. 日常生活力を高める
3. 体力向上とリフレッシュを図る
4. 特性に合った環境を提供し、安定した生活を送る

I 支援計画に基づいた活動の報告

1. 通常活動状況について

① 個別活動について


種類	ペットボトル活動、軽作業、創作活動、個別課題
内容	<p>ペットボトル活動：市内回収</p> <p>軽作業：ハンガーシール剥がし、ゴム取り、クランクピン、パズル</p> <p>創作活動：貼り絵・風鈴創作</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル活動：ご利用者が回収する場所をしっかりと分かっており、やるべきことも分かっているため、とてもいい仕事となっている。 ・軽作業：ハンガーのシール剥がしとゴム取りを行った。ハンガー作業ではきっかけを作ってあげるにより、多くのシールをはがす事が出来た。作業中はとても集中して取り組むことが出来ていた。ゴム取も、手際が良く、あっという間に終わらせる事が出来ていた。 ・パズル：軽作業がない時には、パズルを皆で行った。やり慣れているご利用者は考えながら行う事が出来ていた。職員と一緒に行って一緒に完成する事ができ、いい活動となった。 ・創作活動：夏の活動として皆で画用紙で風鈴を作った。創作活動の好きな人苦手な人さまざまだったが、楽しく作ることが出来た。また、2019年は国体が茨城で行なわれたため、イバラッキーを貼り絵で作った。

② 集団活動について

種類と内容	ウォーキング、音楽レクリエーション
内容	ウォーキング：1.0 km～4.0 kmのコースを季節や状態に合わせて実施。 音楽レクリエーション：毎週火曜日に実施。 プール：夏季に体を動かす楽しみとして実施。
評価	ウォーキングではいろいろなコースを考え、飽きないようなウォーキングを心掛けた。コースが変わっても、不安定になったりせずに、歩くことができた。1 年間、気候も良く、冬場もたくさん歩くことができ、健康を保つことが出来た。時々、誕生会のおやつをもって、休憩しながら食べたりして楽しく散歩に行くことが出来た。プールでは、足のみプールにつかった。わかば班と一緒にいき、楽しく夏を涼むことが出来た。

2. 行事について

行事名称	行事の効果
つくばエキスポセンター 5 月 24 日	初めて公共機関を利用して遠足に行った。北守谷公民館からバスに乗って守谷駅に行き、守谷駅からつくばエクスプレスに乗ってつくば駅に行った。バスに乗ってすぐに、不安からか暴れてしまう御利用者もいたが、電車は好きな様で、電車に乗るとニコニコ笑顔を見せてくれた。つくば駅でご飯を食べその足でつくばエキスポセンターにいった。初めての試みだったが、みんな楽しく過ごす事が出来た。
ランチ忘年会 12 月 20 日	モリヤガーレで、ご家族をお誘いしてランチ忘年会を開催した。ここ数年、親子遠足がなかったので、ご家族の方とも沢山お話が出来てよかった。ご利用者も普段いないお母さんが隣にいて、とてもうれしそうだった。保護者同士でも話が盛り上がり、色々情報交換をしているようだった。また、後日の連絡帳で「たのしかった」と言ってくださった。ご利用者の普段見れないしぐさなどが見られとてもいい時間となった。

	
<p>お疲れ様会 3月</p>	<p>つくば市のペニーレインに外出に行く予定だったが、新型コロナウイルス感染の影響で行くことができず、室内でお楽しみ会を行った。午前中はみんなでお菓子やケーキを買いに行き、頼んでおいたお弁当を取りに行った。到着してから、お弁当を広げて準備をしていると、みんな早く食べたいとじっと見つめていた。お弁当と自分で選んだジュースが並べられるとみんな嬉しそうにしていた。その後は、スライドショーを見て過ごした。見た後はお待ちかねのケーキを食べた。好きなものを選んでもらった。外出はできなかったものの、美味しいものが沢山食べる事が出来、みんなとても満足されていた。</p>

Ⅱ 全体の状況について

新年度が始まって、職員の異動などがあり、心機一転のねっこ班だったが、みんな戸惑うことなく落ち着いて1年間過ごす事ができた。4月から12月まで状態が悪く他害行為があったり、ご飯を食べなかったりしていたご利用者が、1月からはとても落ち着いてすごすことができ、笑顔も多く見られた。また4月から入ったご利用者も少しずつひこうせんの生活に慣れてきて、楽しく過ごす事ができた。1人、入所となり、利用終了となったご利用者がいたが、とても落ち着いて過ごせた1年間だった。3月には新型コロナウイルス感染の影響で、イベントが中止になったりしたが、何とか今年度終えることができた。

Ⅲ 今後の取り組みについて

- ・特性に合わせた環境作り（再構造化、配置）
- ・規範意識の向上（集団行動適応力の向上、ユアペース）
- ・生活の質の向上（季節の行事や外出など）
- ・職員の資質向上（班ミーティング、施設内勉強会、講習会）

生活介護 わかば班（主に知的に障がいのある方）

特に個別に支援が必要な知的に障がいのある方へリサイクル作業、創作活動の機会を提供、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行なっています。

＜目標＞

「日常の生活リズムが整い、健康的に安定した日常生活が送れる」

1. 活動を充実させる
2. 日常生活力を高める
3. 体力向上とリフレッシュを図る
4. 安定した生活を送る

I 支援計画に基づいた活動の報告


1. 通常活動状況について

① 個別活動について


種類	ペットボトル活動、創作活動、ステンシル、軽作業、散歩
内容	ペットボトル回収：週1回、指定場所へ回収に行き、地域との交流を深める。 創作活動：貼り絵、小物作り（クリップに色付けし装飾） ステンシル：色と絵柄を選び、布巾を制作し販売する。 軽作業：ハンガーのシールを剥がす。 散歩：3kmのコースをメインに、天候や体調に合わせてコースを選択。
評価	創作活動では、引き続きクリップの色付けやステンシルをメインとし、イベント時に販売をした。5回イベントに参加し、6,050円売り上げることができた。また、季節ごとにロビーの装飾を担当し、完成した作品の前で写真を撮り思い出作りをした。貼り絵と絵の具での色塗りを組み合わせるなど、ご利用者ごとに得意な方法を考え行なった。散歩では、3kmのコースをメインに最長5kmのコースも歩けるようになった。以前は集団から遅れてしまい、別コースになってしまっていた方も、遅れることなく歩けるようになり体力が付いていることを実感できた。排泄面では、昨年9月からトレーニングを始めているご利用者に対し、目標であった「パッドを完全に外す」という所まで到達。はじめは散歩やドライブなど、外出時はパッドを使用し、センター内のみ外しトレーニングを開始。徐々に失敗も減り成果が見えてきたため、6月から完全にパッドを外し、常に下着のみで過ごしている。まだ失敗してしまう日もあるが、ご本人からのサインも増えており、失敗のない日の割合の方が多くなっている。

	
--	---

② 集団活動について

種類	ウォーキング、音楽レクリエーション、室内運動
内容	<p>ウォーキング：3 km、4 km、5 kmのコースを天候や体調に合わせて選択。</p> <p>音楽レクリエーション：週1回実施。</p> <p>プール：着衣のまま、足のみのプールで実施。</p> <p>室内運動：バランスボール、プラズマカーを使用し、レクリエーション的に楽しく体を動かした。</p> <p>ポスティング：週1回「ちいき新聞」の配布を実施。</p>
評価	<p>昨年度、ポスティング中にご利用者が転倒しケガをしてしまったことを踏まえ、ご利用者の参加人数は1回につき1～2人とし、安全面を考慮して行なった。班の支援員だけでは不十分なときは、他班の支援員の協力も得て、事故なく行うことができた。夏の運動不足解消としては、今年度も北守谷公民館のホールを利用した。しかし、今年度はあまり予約が取れず、十分ではなかった。次年度からは、年間予約の際に、可能な限り予約を取るようにする。</p> <p></p> <p>ウォーキングでは、1年間で総歩数 947870 歩、総距離 480.77 km、総消費カロリー 18,993kcal だった。全員に体力がついてきていることを実感。大きく遅れる方もなく、集団で歩くことができるようになった。また、天候の良い日には午前午後共に歩き、1日で1万歩、距離にして7 km近くを歩くこともでき、ご家族はとても喜ばれていた。年度の後半は新型コロナウイルスの影響もあり、可能な限り外に出て、ウォーキングに励んだ。</p>

2. 行事について

行事名称	行事の効果
<p>サイゼリヤで昼食 &つくばエキスポ センター 6月18日</p>	<p>はじめてバスと電車の公共交通機関のみを使用しての外出。様々な心配がある中での外出だったが、考えていたようなトラブルは1つもなく、電車では一般の方に混じって席に座り、楽しそうに外を眺めるご利用者の姿がとても印象的だった。また、昼食はサイゼリヤに行き、ドリンクバーの前で好きな飲み物を選んだり、とても楽しそうにしていた。時間の都合でエキスポセンター内はあまり見ることが出来なかったが、支援員にとっても大きな自信につながった。</p>
<p>親子忘年会 in モリヤガーレ 3月7日</p>	<p>班の活動として初めて、ご家族をお誘いしてランチ会を開いた。保護者分のお弁当代はいただき、飲み物やおやつは収益金で購入。みんなで保護者の方たちを招待する形式で行なった。総勢40名近い会となり、約3時間をとっても賑やかに楽しく過ごすことができた。普段、送迎時ぐらいしか話す時間がないご家族と、食事をしながらゆっくりと話すことができ、支援員にとっても充実した時間を過ごせた。</p> 
<p>お疲れ様会</p>	<p>リサイクル活動、軽作業などで得た収益金を元に、昨年度に行ったペニーレインでの外食予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、急きょお弁当とケーキを買って、班の居室で支援員も一緒に昼食を食べた。いつもと違う雰囲気の中、みんな嬉しそうに食事をしていて、食後には年間のスライドショーを流し、不二家のケーキを食べながら歓談。外食はできなかったが、工夫次第でセンター内でも十分に楽しめることを、支援員も感じることもできた。</p>

II 全体の状況について

昨年度加わった2名のご利用者もすっかり班に慣れ、にぎやかな9名での活動となった。センター内での大きな事故やケガはなく、安全に過ごすことができたが、1年を通してんかん発作がとて多いご利用者がおり、マンツーマンでの対応が必須となった。12月にはご自宅で転倒し、左足首を2カ所骨折。プレートを入れる手術を受け、1ヵ月の入院とご自宅での静養のため長期間のお休みとなった。3月から数回の利用予定があったが、コロナウィルスの影響でさらに、ご自宅での静養が続いている。また、3月1週目より毎週月曜日のみのご利用で、女性1名が増えた。

Ⅲ 今後の取り組みについて

- ・集中して活動できる環境作り（活動室）
- ・日々の状態に応ずる個別対応（個別活動）
- ・生活の質の向上（季節の行事や外出、余暇）

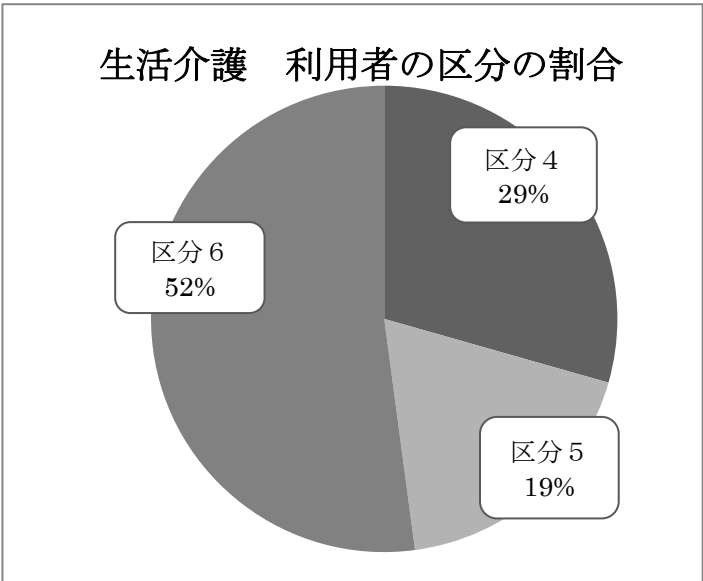
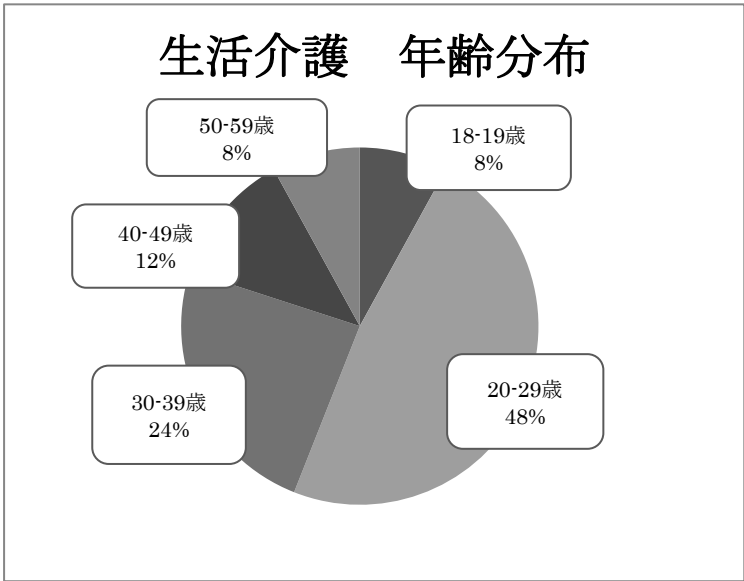
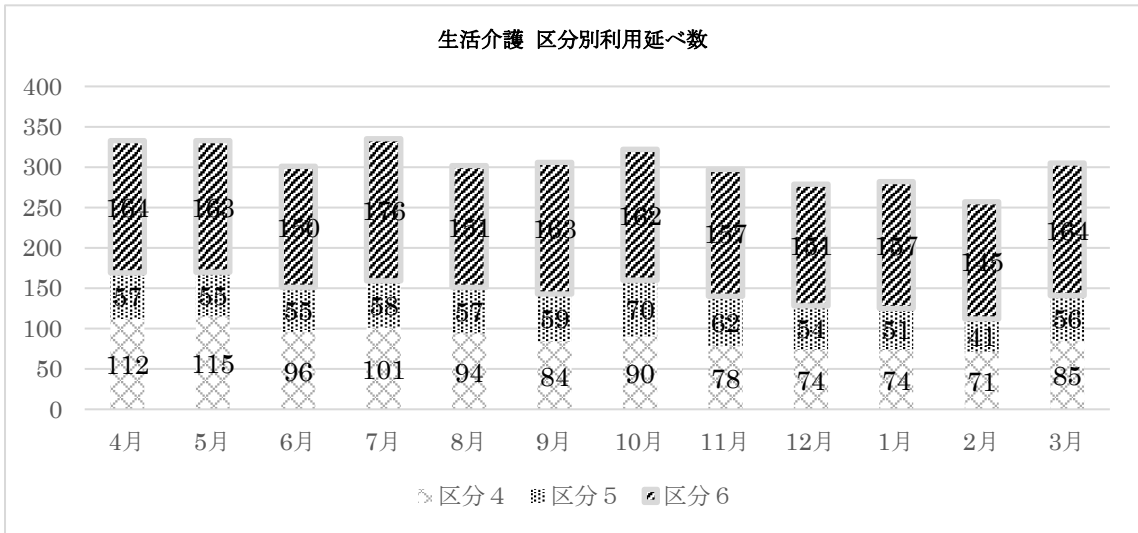
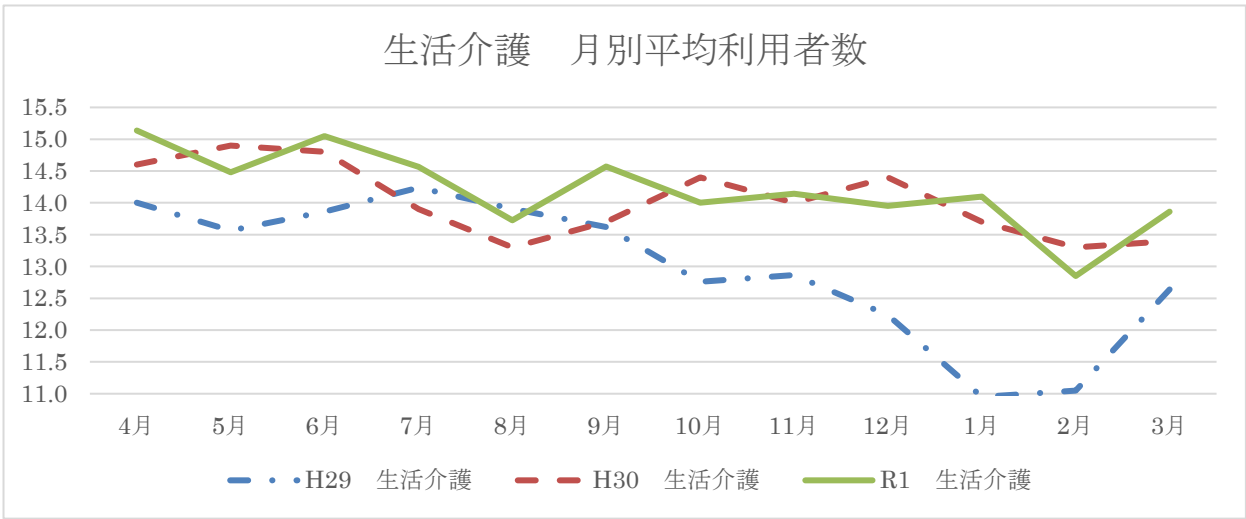
生活介護

生活介護 年齢別ご利用者数

	18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-64 歳	65 歳以上	合計	平均 年齢	最高齢	最年少
男性	2	8	5	2	1	0	0	18	31.6	56	19
女性	0	4	1	1	1	0	0	7	32.7	50	22
合計	2	12	6	3	2	0	0	25	31.9		
割合	8%	48%	24%	12%	8%	0%	0%	100%			

生活介護 障害支援区分別 利用延べ数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	実人数	割合
区分4	112	115	96	101	94	84	90	78	74	74	71	85	1,074	7	29.4%
区分5	57	55	55	58	57	59	70	62	54	51	41	56	675	4	18.5%
区分6	164	163	150	176	151	163	162	157	151	157	145	164	1,903	11	52.1%
	333	333	301	335	302	306	322	297	279	282	257	305	3,652	22	100%



就労移行 つばさ班（一般就職を希望する方）

一般就労に向けて、知識、能力の向上、実習、職場探し等を通じて、適性に合った職場へ就労できるように支援しています。

《目標》

「就職に向けての作業能力の向上、社会のマナーを身につけ、個々に合った就職ができるようにする」

1. 就職に必要な技術を身に着ける（実際の職場を想定した訓練）
2. 地域での安定した生活を目指して必要な生活力を身につける。
3. 就職に向けての準備

I 今年度報告

在籍者がいないため、活動はしていない。

II 今後の取り組みについて

- ・障がいの特性をよく理解し、就職への準備のために社会のマナーを身につけ、作業能力が向上するように支援を行なっていく。
- ・就職に関する情報を集め、利用者に提供できるようにし、その方にあった情報を得た時には積極的に見学・実習を行うようにする。

就労継続支援 B 型 ひまわり班 （就労を希望される方）

通所により就労や生産活動の機会を提供し、一般就労に必要な知識、能力が高まった方については一般就労・就労 A 型への移行に向けて支援します。

《 目標 》

- ・ご利用者が、地域の中で安定した生活を送れることが出来る
- ・お一人お一人が出来る作業を見つけ、作業を通して、工賃の向上を目指す

1. 安定した工賃の支給（月平均 19,500 円以上）
2. 地域での安定した生活を目指して、必要な生活力を身につける。
3. 一日の作業、活動を滞りなく行なえるようにする
4. 一般就労に向けての準備
5. 笑顔をたくさん生み出す。

I 支援計画と活動の連携

1. 日常活動状況について

①作業の内容及び評価

種 類	活動内容及び評価
缶・ペットボトルリサイクル作業	4 月～11 月まで、缶仕分けの缶を搬入するトラックの台数は 3 台（ルート）だった。12 月にトラックの台数が 3 台から 2 台（ルート）に減った。その後は缶仕分け作業は週に 1～2 回実施する程度となった。夏季は熱中症対策として、例年行っている扇風機・タープ・保冷剤に加えて、今年はミストを取り入れた。
給食サービス	今年度は給食の体制が変わったことから、当面の間、配膳作業は行わず、食器洗いと厨房清掃のみを行った。
EM ぼかし作り	生ゴミ発酵促進剤。EM 菌とぬかやもみ殻を、手で混ぜ合わせて EM ぼかしを作り、センターでの販売のほか、市役所・郷州公民館・文化会館・高野公民館に委託し販売した。委託先には、定期的に補充と代金回収に出向いた。まつやま保育園、まつやま百合ヶ丘保育園からは個別注文があった。

苗作業	<p>今年度の花苗事業も、キングス・ガーデンのケアハウス花壇整備・まつのき公園里親事業とイベント時の花苗販売、5月にグリーンカーテン苗販売を行った。苗は仕入れと栽培による。苗栽培は自然の中で作業を行うことでリフレッシュの時間も兼ねている。</p> <p>技術・在庫・供給上の問題から、無人販売所は今年度も行っていない。地域のイベントについては、今年度はイオンタウンバザーのみ出店した。北守谷公民館まつりは出店を予定し準備していたが、新型コロナウイルスによる感染防止のため出店部門自体が中止となった。また法人内ではサマーフェスで販売を行なった。</p>
軽作業	<p>(株)オクムラのアコーディオンカーテン部品の組み立て・伯耆田製作所のファイル部品組み立て・サイテックの電子部品加工作業・コーポレーション芝からのハンガー作業を請け負っている。現在4社の軽作業を請け負っており、ご利用者お一人お一人にあった作業の提供を可能にしている。ご利用者が自立して作業を行なえるよう、ジグを使用し、作業環境を整える工夫をした。</p>
ちいき新聞 (ポスティング)	<p>センターの近隣である、松が丘6・7丁目(約600軒)のポスティング作業を、引き続き行っている。天候に左右されやすい作業のため、天候次第でご利用者が外作業を実施できない時は、ご利用者はチラシ折り作業のみを行い、職員がポスティング作業を行う工夫をした。</p>
自動販売機管理	<p>北守谷公民館の自動販売機の補充・空き缶回収・集計を行っている。飲料を扱うため、補充作業は必ずビニール手袋をし、衛生面に気を付けながら行っている。</p>
清掃作業	<p>守谷こども療育教室と守谷聖書教会の清掃作業を行っている。療育教室はひと月に20日間、12:15~12:55の40分間実施している。守谷聖書教会は毎月第2第4金曜日、13:30~14:15の45分間実施している。この2施設での施設外就労は、一般就労の勉強の場にもなっている。</p>
パステル	<p>月に一度、パステルを実施している。パステル実施前にその日のテーマにちなんだ動画観賞を行い、イメージを膨らませてから取り組む工夫をしている。</p>

2. 行事

種 類	実施月	内 容
誕生会	月 1 回	誕生日をお祝いする 担当班は会の企画準備を行なう
お花見	4 月	立沢公園まで歩いて花見に出かけた。シートを敷いて座り、それぞれの方がお菓子と飲み物を手に、満開の桜を見て楽しんだ。
高野こいのぼりまつり	5 月	就労班が出店し、じゃがバター・ジュース・ぼかしを販売した。当日は気温が高く、ご利用者の水分補給に気を配った。
友近やっくんコンサート	5 月	友近やっくんがボランティアで来所され、大迫力の歌と書道を披露してくださった。最後にじゃんけん大会のサービスもあり、盛り上がった。
植栽ボランティア	5 月	守谷駅付近で行われた植栽ボランティアに就労班ご利用者数名と介護班ご利用者が参加した。当日は日差しが強く、30 分実施して 1 区画しかできなかったが、作業を楽しむことが出来ている。
大正琴	5 月	ボランティアの方による大正琴の定期演奏が行われた。
キングス・ガーデン合同運動会	5 月	雨天のため、中止。代わりにひこうせん施設内でお楽しみ会を行った。パブリカ・ソーラン節を踊った。
ジャガイモ掘り	6 月	センター近くの方のご厚意でジャガイモ堀をさせていただいた。
イオンタウン 買ってNet! バザール	7 月	イオンタウン守谷で行われた、守谷市社会福祉協議会主催のバザーで花苗、ぼかしを販売した。
職場体験	7 月	取手市の就労継続支援 B 型、ポニーの家に見学に行った。就労班のクッキー・パン作りや、介護班の小物作りを見学した。昼食は「すぎのや本陣」で食事をした。
フラダンス	7 月	毎年ボランティアでセンターに来て頂いているフラダンスの方の訪問があった。ご利用者のなかではダンスの好きな方が多く、また見慣れた先生が多いのでしばらく前から楽しみにされており、楽しい一日を過ごされた。
スイカ割・お楽しみ会	8 月	スイカ割り・夏のお楽しみ会を行なった。夏のお楽しみ会では、ダンス・的あてを行った。
アートコラボ展の出品・見学	9 月	キングス・ガーデン・ぶどうの木で行われたアートコラボ展に、就労班からはパステルを出品した。飾られた作品を見学に出かけた。

なめがた遠足	10 月	なめがたファーマーズヴィレッジへ遠足にでかけた。さつまいも工場見学・ランチ・お土産購入を行った。工場見学では-30℃の冷凍庫へ皆で入り、その寒さに驚いた。ランチはカレーとジェラートを食べた。
ひこうせん運動会	10 月	雨天のため、ロビーで行った。当日は、風船運び、綱引き、ソーラン節などを楽しんだ。
バーベキューパーティー	10 月	もりやまなびの里でバーベキューパーティーを行った。晴天に恵まれた。ほとんどのご利用者が行き帰り歩くことができている。就労班は、火おこし、調理を担当し、皆でダンスを踊った。
さつまいも掘り	11 月	就労班で植えたさつまいもの収穫を行った。
大正琴	11 月	ボランティアの方による大正琴の定期演奏が行われた。就労班ご利用者は、あの丘越えて、高校3年生、紅葉、夕焼け小焼け、千曲川、ふたりの大阪を、立候補して前に出てマイクで歌った。
キングス・ガーデンバザー	11 月	キングス・ガーデンバザーに参加した。就労班はじゃがバターのお店を出店した。当日は雨風が強く、ご利用者の販売作業は取り止めとなった。ご利用者は室内で過ごされ、昼食はカレーとじゃがバターを召し上がった。ステージ発表は予定通り実施し、ソーラン節、パプリカを披露した。
ぶどうの木	12 月	マナー講習の励みとして、キングス・ガーデン内のカフェ、ぶどうの木へ行ってきた。ドリンクとパウンドケーキを楽しまれた。また、以前ひこうせんを利用されていたご利用者と再会でき、楽しい時間となった。
クリスマス会	12 月	ひこうせんクリスマス会があった。就労班は、3匹の子豚、ひこうせんバージョンの劇を発表した。練習の成果が出て、素敵な発表となった。就労班はご自分でリクエストしたクリスマスプレゼントを受け取られ、楽しい一日となった。
成人式	1 月	ひこうせんのご利用者2名の成人式を行なった。就労班はダンスを披露し、お祝いをした。
お楽しみ会	1 月	センターでお楽しみ会を行なった。じゃんけん大会、

		はごいたの風船リレー、お菓子つりに参加した。就労班はチームワーク賞を頂いた。
さつまいもクッキング	1 月	就労班居室にてさつまいもクッキングを行なった。さつまいもは11月に畑で収穫したものを使用した。メニューは、さつまいも蒸しパンと蒸かし芋のバター焼きだった。職員が朝蒸かして食べられる状態にしておいたさつまいもを、ご利用者がステーキナイフを使いご自分で輪切りや角切りをし、それをバター焼きにしたり、蒸しパンにトッピングをした。
北守谷公民館祭り出店 中止に伴い、就労班のみでセンターで活動を行なう	2 月	北守谷公民館祭りに参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染防止のため、お祭りの出店・発表が中止となった。当日は就労班のみ通所し、センターにて通常活動を行なった。昼食はお弁当を購入して食べた。
2019 年度慰労会	3 月	毎年、慰労会ではボウリングと外食を楽しむが、今年度の慰労会は新型コロナウイルス感染防止のため、小規模な内容となった。ドライブに行き、車内から桜を鑑賞し、センターでお弁当を食べ、ゲームをして過ごした。

Ⅱ 目標に対しての全体の状況変化（利用者の）について

- ・ 年間の平均工賃が 18,771 円となり、目標の 19,500 円には届かなかった。収入別で分けると、リサイクル事業が全体の 35 % を占めて、続いて軽作業が 18 % ・ 清掃作業が 13 % ・ 給食サービス 12 % となっている。

年間平均工賃の目標まで行かなかったが、年間を通して各作業内容とも安定して、行うことが出来た。

- ・ 日常生活に必要な能力を身に付けるために、挨拶・言葉遣い・身だしなみ・手洗いに関して声掛け支援を行った。
- ・ 一日の作業を滞りなく行えるように、前日の帰りの会までに明日の作業内容とご利用者がどの作業を担当するかを明確にし、帰りの会にご利用者お一人お一人に明日の予定を話し、朝の会で再度今日の予定をお一人お一人に話すことを徹底した。
- ・ 一般就労に向けての準備として、取手市にあるポニーの家に職場見学に行った。
- ・ 笑顔をたくさん生みだすことに関しては、通常活動日にはパステルの創作を行ったり、休み時間に支援員がご利用者に話しかけたり一緒に遊んだり踊ったりすることで、ご利用者の笑顔を生み出す工夫をした。また積極的に行事を行うことで、ご利用者に楽しい時間を過ごしていただいた。

Ⅲ 今後の取り組みについて

- ・ 引き続き、前日の帰りの会までに明日の作業内容とご利用者がどの作業を担当するかを明確にし、帰りの会にご利用者お一人お一人に明日の予定を話し、朝の会で再度今日の予定をお一人お一人に話すことを徹底し、ご利用者が見通しを持って落ち着いて作業に臨めるようにしたい。前日に明確な予定を知ることで、ご利用者をご自分で明日の予定に合わせた服装を選んだり、必要物品を準備して来所することができるようにしたい。
- ・ 障がいの特性をよく理解し、ご利用者が穏やかで安定した作業を行えるように支援していく。また働くことが楽しくなる環境を提供できるようにする。
- ・ 余暇を楽しむことができるような企画をもっと増やす。パステルも引き続き毎月行なっていく。

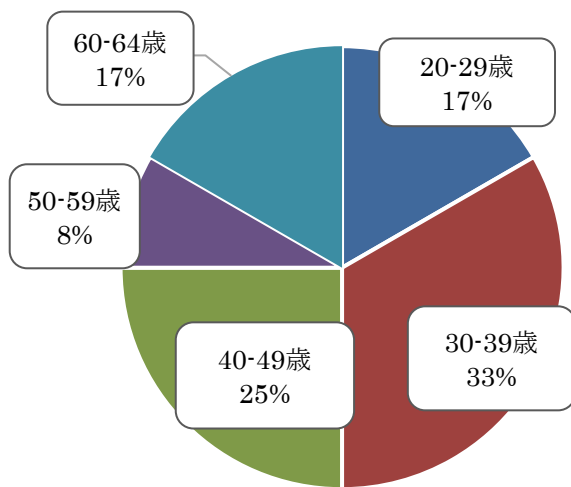
就労(移行・継続B) 年齢別ご利用者数

	18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-64 歳	65歳 以上	合計	平均 年齢	最高齢	最年少
男性	0	0	4	2	0	2	0	8	43.8	62	34
女性	0	2	0	1	1	0	0	4	37.5	51	22
合計	0	2	4	3	1	2	0	12	40.6		
割合	0%	17%	33%	25%	8%	17%	0%	100%			

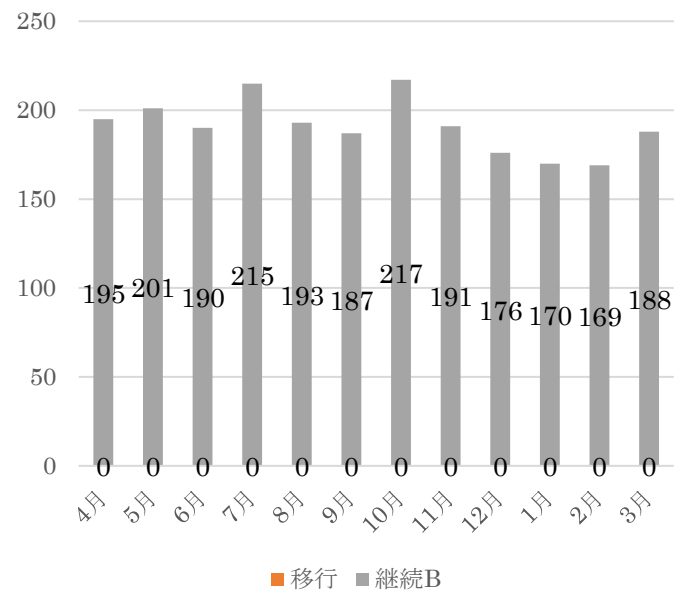
就労(移行・継続B) サービス別利用延べ数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	実人数
移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
継続B	195	201	190	215	193	187	217	191	176	170	169	188	2,292	12

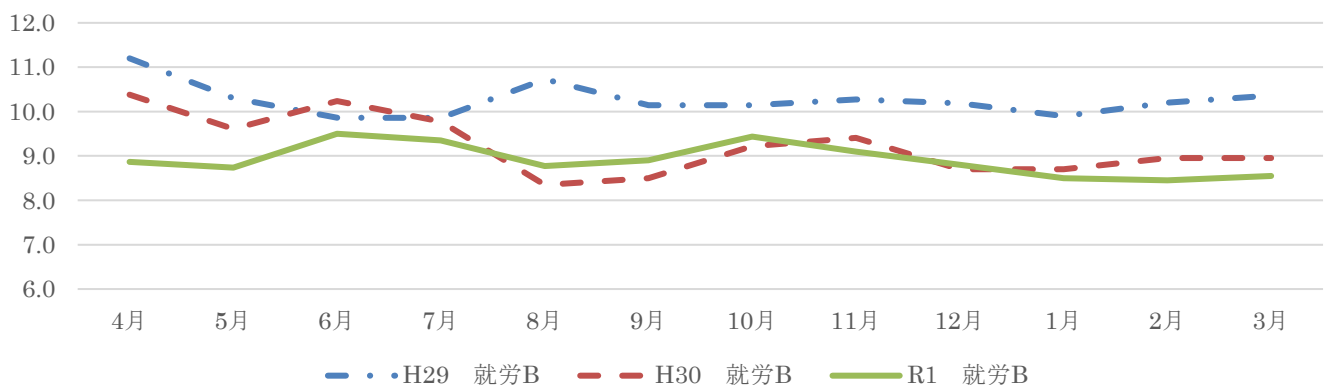
就労 年齢分布



利用延べ数



就労継続支援B型 月別平均利用者数



放課後等デイサービス どんぐり班 (特別支援学校・学級の児童・生徒)

放課後や長期休暇中の子ども達の「居場所」となり、日常生活における基本的動作および知識や技術の習得をめざし、個々の発達段階に即した療育や支援を行っています。

I 支援計画に基づいた活動の報告

1. 日常のプログラム

① 個別活動について

種類	パズル・お絵かき・ブロック・プラレール・ボール遊び・ぬり絵等
内容	利用者それぞれが、やりたい遊びを自分で選び取り組む。支援員は遊びの中でそれぞれの課題に応じた対応をしながら、日常生活動作の獲得が出来るように支援を行った。
反省点	利用者の組み合わせによって、個別活動への取り組み方に大きな差が生じている。また利用者の好みによって、取り組む課題に偏りがみられた。

② 集団活動について記述

種類	体操・音楽
効果	特定のプログラムを提供することで、その活動を希望する利用者が利用日を選択することが出来た。
反省点	支援級在籍の児童は、時間割の都合で月曜日にしか利用出来ないため、例年同様、月曜日に利用者が集中してしまった。体操では、各児童の身体能力や指示理解にかなり差があるため、マンツーマンでの対応も必要となっている。 音楽活動では、他班の支援員が主導して行なう週と、他の週では内容を変えて行ない、マンネリ化を避けるようにした。

③ 制作活動

種類	統一課題の個別制作
効果	設定した制作課題に取り組むことで、その時期のイベントや行事について知ったり、個別の課題の発見・訓練につながったりした。
反省点	昨年度に引き続き、2 か月に1作品を仕上げることにしたため、利用回数が少ない児童や利用時間が短い児童でも、時間をかけて丁寧に作品を完成させることが出来た。

2. 行事

行事名称	参加の仕方及び行事の効果
誕生カードのお渡し（毎月）	利用が不定期である児童もあり、誕生会を行うことが困難なため、誕生カードのお渡しを継続している。
お花見 実施 4 月	他班の利用者と共に、公園でのおやつを食べながらの花見となり、いつもと違う雰囲気の中で、楽しみながら季節を感じることが出来た。
遠足 実施 11 月	県民の日を利用して、すみだ水族館に出かけた。初めての公共交通機関利用、親子遠足となった。全体で行動する時間とは別に、ご家族で行動する時間も取れたので、どのご家族も思い思いの時間を過ごすことが出来たと思われる。
クリスマス会 実施 12 月	今年度利用のあった児童全員にプレゼントを用意するとともに、25 日のおやつをお楽しみメニューにした。また直近の制作では手形を利用したクリスマスツリーにして、当日までに各自にお渡しすることで、自宅で飾っていただけるようにした。 (プレゼント：名前入りハンカチ) (おやつ：ポテト・ナゲット)

II 全体の状況変化（利用者の）について

新入学の児童 1 名が、4 月初めから利用となった。ご本人が安定して、楽しく過ごせるよう努めた。初めは、ほとんどご本人からの発信がなく、感情も読めない状態だったが、1 年経過し、自分から絵本やおもちゃを手に取ったり、支援員に関わりを求めに行ったりと、自発的な行動や、大きな声を出して笑う姿が見られるようになった。

てんかんの既往のある児童が、異常な眼球運動やふらつきが目立つことがあり、保護者との受診結果のやり取りや、看護への報告・周知を徹底した。

日常生活動作は日々の積み重ねで出来ることが増えている。以前からの利用者は一日の流れを理解し、自発的に行動出来ている。新入学児も、少しずつ自分のロッカーを確認して荷物を片付けたり、靴の着脱や食事等も利用当初より短時間で出来るようになっている。

III 今後の取り組みについて

- ・「自分の名前がわかる」「困っていることを伝える」「自分で選択する」について、今後も継続し、場面を変えても出来るようにする。（来年度は下駄箱の位置を変更し、名前の確認を促す予定）
- ・個々の利用者の発達に応じた課題に対して、支援員が共通理解をもち、統一した支援していくとともに、可能であれば個別療育・個別リハの時間を設ける。
- ・子供たちは日々成長していることを念頭に置き、その成長を妨げるような支援がなされることが無いよう十分に配慮していく。
- ・利用者が安心して生活出来るよう、安全対策に十分配慮し環境整備を行っていく。

IV 業務の標準化について

1 どのような業務が標準化されたか

- ・ 毎日のサチュレーションの測定（必要な児童）
- ・ 個別支援計画をもとに、個々の支援にあたった。
- ・ 学校や他事業所との連携をし、支援目標や指導目標の共有を計った

2 今後行うべき業務標準の取り組みについて

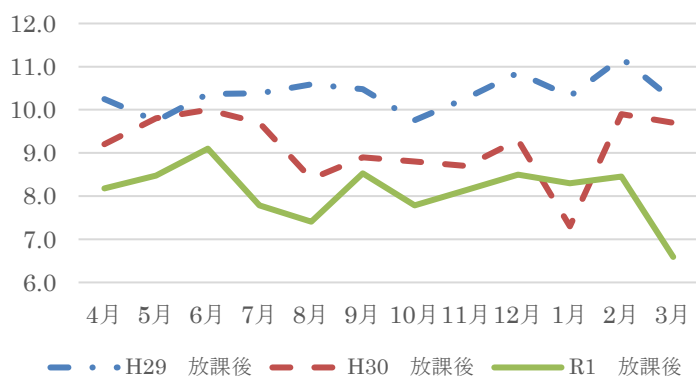
- ・ 学校や他事業所との連携の強化
- ・ 家庭との連携を強化する。
高等部卒業後を見据えた支援を考える。
- ・ 個別療育の実施に向けての指導計画を立てる。
個々の課題に応じた支援計画の作成

放課後等デイサービス 月別 利用延べ数(名)

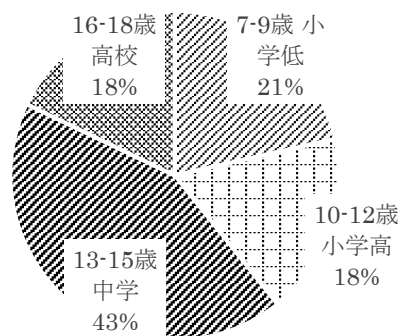
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
放課後	136	172	182	116	0	169	171	155	140	150	159	0	1,550
休校日	44	23	0	63	163	10	8	16	30	16	10	145	528

	7-9歳 小学低	10-12歳 小学高	13-15歳 中学	16-18歳 高校	19-21歳 就学猶予	合計	平均 年齢	最高齢	最年少
男性	6	3	7	5	0	21	13.1	18	8
女性	0	2	5	0	0	7	12.9	14	11
合計	6	5	12	5	0	28	13.0		
割合	21%	18%	43%	18%	0%	100%			

放課後等デイサービス 月別平均利用者数



放課後等デイサービス 年齢分布



看 護

《目的》

- ・ご利用者の健康保持増進、異常の早期発見、対応に努める
- ・正確かつ適切な医療処置の提供に努める
- ・それぞれの障がいの特性に合わせた看護を行う

＜目標＞

1、御利用者の健康保持増進、異常の早期発見、対応に努める

(実施内容)

- ・御利用者の体調確認
- ・バイタルサイン測定
- ・体調不良者の対応、創傷処置、外用薬等の薬剤の塗布
- ・服薬確認、管理
- ・持参薬のお預かり
- ・帰宅困難時に備えてのお薬のお預かり、管理
- ・衛生用品請求、管理
- ・新規ご利用者受け入れ対応
- ・医療情報の提供
- ・感染対策
- ・嘱託医訪問時の介助
- ・夏季は、熱中症モニターにて指数を計測し、活動に反映、屋外活動（散歩、缶仕分けなど）の実施の可否判断の助言
- ・インフルエンザの予防接種の実施（ご利用者、職員）
- ・冬季は感染性胃腸炎、インフルエンザ等の流行情報を随時確認、早期発見の為に、より細やかな体調確認の実施
- ・感染委員会と連携し、マニュアルの作成、見直し、日々の環境整備（清掃、消毒の徹底）の促進、感染症発症者の対応についての検討、季節性の感染症の流行状況を確認し、職員への周知の実施

2、正確かつ適切な医療処置の提供に努める

(実施内容)

- ・医療的処置が必要な御利用者の対応
(気管内吸引、口腔鼻腔内吸引、経管栄養、与薬、酸素投与、人工呼吸器対応等)

3、それぞれの障がいの特性に合わせた看護を行う

《各項目における実施内容の報告》

【1、御利用者の健康保持増進、異常の早期発見、対応に努める】

①御利用者の体調確認

- ・個人差が大きく、体調不良の表出が難しいご利用者が多いため、適宜体調確認、経過観察を行い、体調不良の早期発見に努めている。

②バイタルサイン測定

- ・バイタルサインの測定を、急変時の目安、体調管理の一環として継続している。

③体調不良者の対応、創傷処置、外用薬等の薬剤の塗布

- ・体調不良時は、経過観察、悪化防止に努め、対応に当たっている。
- ・軽微な創傷、皮膚トラブルなどが多い為、その都度観察、処置実施している。

④服薬確認、管理

- ・定時の服薬は、今年度作成した、新たな服薬チェック表の使用を継続している。
- ・看護職員間での、与薬の際と与薬が完了した際の声掛けを、徹底している。

⑤持参薬のお預かり

- ・保護者のご希望や、必要に応じて持参薬をお預かりしている。
- ・臨時薬は、与薬忘れが無いよう、アラームをセットし与薬実施した。

⑥帰宅困難時に備えてのお薬のお預かり、管理

- ・帰宅困難時に備え、3日分の薬のお預りを継続している。
- ・定期的に預り薬を確認し、薬の破損、紛失が無いよう管理している。

⑦衛生用品請求、管理

- ・医療的処置に必要な物品や、感染対策に使用する物品の管理を行っている。

⑧新規ご利用者受け入れ対応

- ・新規での受け入れ時は、看護介入の必要度合いを検討している。

⑨医療情報の提供

- ・今年度は、上半期に医療機関に、看護サマリーを1件提出した
- ・センターで得た医療的処置に関する指示書を、他施設の要望で、保護者の同意を得たうえで、相談支援を介し、情報提供、情報共有を図った。

⑩感染対策

- ・職員の感染対策への意識の向上を目的とし、毎月職員会議の際、季節性や流行が懸念される、感染症に関する資料を配布、発表している。
- ・感染症の予防、早期発見、拡大防止の為に継続的に観察を行い、感染症が疑わしい場合、保護者への連絡を行い、センターでの感染症の拡大防止に努めた。
- ・感冒症状など感染症が疑わしい時は、連絡帳に記載し、保護者へ連絡を行っている。
- ・水痘を発症された御利用者が1名あったが、感染拡大には至らなかった。

⑪嘱託医訪問時の介助

- ・毎月1回継続しており、ご利用者のセンター内における健康状態の報告、相談、感染症についての対応等の相談を主に行っている。

- ・10月に再開し、継続して実施できている。

⑫アレルギー対応

- ・食物、寒暖差アレルギーがある方が1名利用開始となったが、症状無く経過した。
- ・食物アレルギーの該当者一覧表を作成し、給食調理の職員へ提出した。

⑬食事形態に関する助言・今期は実施無し。

⑭夏季は、熱中症モニターにて指数を計測し、活動に反映、屋外活動（散歩、缶仕分けなど）の実施の可否判断の助言

- ・熱中症モニターでの計測、記録、水分補給の実施行い、今年度から塩飴での塩分補給、タープテントやシャワーミスト、脇下用クーリングバンドの使用を開始し、熱中症になった方はいなかった。
- ・熱中症対策についての資料を配布し、注意喚起を継続して実施した。

⑮インフルエンザの予防接種の実施（ご利用者、職員）

- ・11月7日にご希望の利用者と、全職員を対象に、予防接種の実施をした。

⑯冬季は感染性胃腸炎、インフルエンザ等の流行情報を随時確認、早期発見の為に、より細やかな体調確認の実施

- ・感染性胃腸炎、インフルエンザのマニュアルの再配布を行い、注意喚起を行った。
- ・感染症の流行情報を確認し、朝礼や職員会議で周知、注意喚起を継続して実施した。

⑰感染委員会と連携し、マニュアルの作成、見直し、日々の環境整備（清掃、消毒の徹底）の促進、感染症発症者の対応についての検討、季節性の感染症の流行状況を確認し、職員への周知の実施

- ・今年度も、感染症予防の為に、環境整備を継続して実施した。
- ・季節性の感染症の流行期は、ご家族へ来所前の検温の協力をお願いした。
- ・感染症の罹患者を認めた場合は、感染委員会、各班リーダー、サービス管理責任者、施設長と連携を取り、感染拡大防止の対策を都度検討した。

【2、正確かつ適切な医療処置の提供に努める】

（実施内容）

- ・医療的処置が必要な御利用者の対応（気管内吸引、口腔鼻腔内吸引、経管栄養、与薬、酸素投与、人工呼吸器対応等）
- ・御利用者からの追加での利用希望があり、火曜日に追加での利用が開始となった。
- ・いずれも、医師の指示書に基づき、医療的処置を実施している。
- ・医療的処置として、気管吸引、経管栄養、酸素投与、人工呼吸器の対応がある
- ・入院後の利用再開時は、医師の指示書の再取得を保護者に依頼し、御利用者の状態の変化に合わせ、医師の指示を最新の状態に維持できる様務めた。
- ・体調の変化、御本人の訴え、様子や医療的処置の実施時間などは、連絡帳に記載し、ご家族に報告し、看護記録に細かく記載することを徹底、継続している。

～各利用日による医療的処置実施の人数と内容～

曜日	人数	実施内容と内訳
月	利用なし	
火	2名	経管栄養 2名 鼻腔吸引 1名 気管吸引 1名 酸素投与 1名（必要時） 人工呼吸器 1名（必要時）
水	利用なし	
木	1名	経管栄養 気管吸引 酸素投与（必要時） 人工呼吸器（必要時）
金	1名	経管栄養 気管吸引 唾液持続吸引 酸素投与（吸引時） 人工呼吸器

【3、それぞれの障がいの特性に合わせた看護を行う】

（実施内容）

- ・内服の自己管理が難しいご利用者は、ご自身でできるだけ自己管理できるように支援しつつ、内服忘れがないよう観察を継続している。
- ・介護班は体調不良の訴えが難しい為、日頃から細かな体調確認を行い、就労班は、自ら体調不良を申し出ることができるよう声かけ、介入を継続している。
- ・相談支援から依頼があった、自宅での内服が難しい御利用者は、一定期間、来所時の与薬を継続して行っていたが、利用終了に伴い与薬も終了した。

【4、その他】

①看護業務マニュアルの作成

- ・今年度は、看護業務マニュアル（服薬管理、回診、看護記録、医療的処置など）を新たに作成し、適宜更新している。
- ・看護師不在時も円滑に事故なく与薬ができるよう、他職種用の与薬管理のマニュアルも作成した。



②心肺蘇生法（一次救命処置）の研修の実施

- ・心肺蘇生法の研修を実施した
- ・CPR 習得の必要性の説明し、特に重要な、胸骨圧迫の重要性と、圧迫のテンポ、力加減を実際に体感してもらうため、1人1本、ペットボトル（人体の胸部を圧迫する圧力

様 入浴予定表

月	火	水	木	金	土	日
		入浴		入浴		入浴



と、同等の圧力で圧迫できると実証済みのもの）を用意し、訓練を行った。

③個別での栄養指導と身体の清潔保持の促進への介入

- ・センター利用開始後から体重増加や、入浴ができず身体の清潔保持が難しいご利用者が1名今年度から利用開始になったため、昼食後に個別で資料を用いた栄養指導の実施、入浴の確認、声掛けを行った。

④放課後等デイサービス家族向けのおたより配布

- ・季節性の感染症の流行期を前に、体調不良の早期発見と、感染拡大防止を目的に、保護者へ向けたおたよりの配布を実施した。

⑤放課後等デイサービス職員に向けた適切な検温方法についての説明と実演

- ・看護師と支援員との検温の数値に大きな差がみられたため、検温方法の再確認、検温方法の実演、資料の配布を行い実施した。

⑥就労班ご利用者に向けた適切な検温方法についての講習

- ・就労班は御利用者が検温を実施しているが、適切に検温が実施できていないことが多く見られたため、手指衛生、マスクの着脱方法と合わせて、講習を行った。

⑦利用再開に向けた入院中の御利用者への訪問

- ・自宅での転倒にて入院中の御利用者へ、利用再開に向けた報収集を目的に訪問同行した。



《評価》

- ・バイタルサイン測定を継続的に行うことにより、日頃の体調管理に役立てることができた。
- ・今年度は、医療的処置のインシデントが1件あったため、来年度はインシデントをなくしたい。
- ・体調不良者の対応、多くあるが、他職種と連携を図り、継続した対応ができた。
- ・与薬に関しては、新たなチェックリストを使用や看護師間での確認を徹底することにより、誤薬や、与薬間違えが今年度は無かった。
- ・早期発見や、継続的な観察により、体調不良の悪化や対応が遅れたケースは無かった。
- ・定期的な預り薬のチェックをすることにより、適切な時期に保護者に返却、持参の依頼をすることができ、適切に管理の継続ができた。
- ・今年度も、感染症のセンター内での感染拡大は認められなかった。
- ・マニュアルを新たに作成することにより、業務を標準化することができた。
- ・熱中症に関しては、昨年度より厳しい対策をしたうえで、今年度も発症者が無く経過することができた。
- ・御利用者の観察を日々継続することで、個人の障がいに合わせて看護介入の必要性を検討できた。
- ・医療情報の提供は、必要に応じて行うことができた。
- ・嘱託医訪問の際には、細かく日々の経過を報告し、指示を仰ぐことができた。
- ・心肺蘇生法の勉強会を実施したことにより、緊急時に備え、最低限の救命の技術を取得する機会の提供の必要性を感じた。

《来年度に向けて》

- ・来年度も、センター内での感染症の流行が無い様、感染対策を徹底して行いたい。
- ・熱中症に関しては、来年度も対策を見直し、実施していきたい。
- ・指示書を確認しながらの医療的処置を徹底していきたい。
- ・災害時のお薬は、適切な管理を継続していきたい。
- ・マニュアルは、適宜更新し、最新の状態を保ちたい。
- ・日頃の薬の管理の徹底を継続していきたい。
- ・日々のバイタルサインの測定を今後も継続して行きたい。
- ・日々、ご利用者の生活の様子を観察することを継続し、体調不良や、創傷などのご家族への報告は、今後も速やかに行って行きたい。
- ・心肺蘇生法の勉強会を継続して実施したい。

リハビリテーション(成人・児童)

障がい児、者がその人らしくよりよく生活できるように、出来る部分を伸ばし出来ない部分を出来るようにしていくこと。

目 標

1. ご利用者が楽しみを持ってリハビリテーションに参加することが出来るようにする。
2. 他職種とご利用者の情報を共有する。
3. 個別支援計画に基づいたリハビリテーションを継続する。
4. ご利用者、ご家族からのニーズを把握し、介入方法に取り入れる。
5. 医学的根拠に基づく介入を行うようにする。
6. 外部研修への参加による技術の向上に努める。
7. 児童の発達段階に合わせたアプローチをする。
8. ご利用者への直接的なリハビリテーションだけでなく、環境調整を必要に応じて担当支援員と相談する。

実施状況

対象疾患

成人

12 名

知的障がい 自閉症 脳性麻痺 高次脳機能障がい
筋疾患 先天異常症候群

児童

6 名

知的障がい 協調性運動障がい 自閉症 身体障がい
先天異常症候群 クレアチントランスポーター欠損症

主な介入内容

拘縮、ROM 制限 → 他動的 ROM-ex
筋緊張亢進 → 良肢位保持、バランスボール
筋委縮 → 徒手抵抗運動、基本動作練習
応用動作 → 歩行訓練、階段動作訓練、後進歩行
協調動作 → ブロック積み、ペダル漕ぎ
巧緻動作 → つまみ動作練習、形合わせ課題等
感覚過敏、鈍麻 → 感覚統合療法

1. ご利用者が楽しみを持ってリハビリテーションに参加することが出来るようにする。

一人ひとりの興味関心事、得意なことなどを機能訓練に取り入れ、単調な動作訓練にならないように努めている。励まし、褒める声掛けをすることで意欲や自己肯定感の維持、向上を行っている。リハビリテーションを行う際は必ずご本人の意思を確認し、同意を得て実施している。

ご利用者の方から「今日リハビリしたいです」との自発的な声掛けも見られている。

2. 他職種とご利用者の情報を共有する。

ご利用者の連絡帳記載による保護者との情報交換や、担当支援員にご利用者のリハビリテーション実施日の体調についての情報を得ている。特にてんかん発作のリスクのあるご利用者や、痰がらみのリスクのあるご利用者に関しては、情報共有により症状が安定している日にリハビリテーションを実施することができている。

また、日中活動時のルーティンや、身辺動作に支援を多く要するご利用者に関しては、支援員にあらかじめリハビリテーションを行う日を伝え、リハビリテーション実施時間に合わせて日中活動支援を行っていただいている。

ケースによっては、他事業所との連絡によりリハビリテーション時のリスクを減らし、ご利用者やそのご家族が安心してリハビリテーションを受けることができるように連携をしている。

3. 個別支援計画に基づいたリハビリテーションを継続する。

リハビリテーション計画書を3ヶ月ごとに評価、更新し、個別支援計画との関連性を確認している。個別支援計画をもとに継続したリハビリテーションの状況を、担当医師に報告している。

リハビリテーションを実施する際の注意事項を医師に確認している。

4. ご利用者、ご家族からのニーズを把握し、介入方法に取り入れる。

ご利用者から口頭でのニーズ聴取は難しいことが多いが、身体的な反応や感覚刺激からご本人の身体的ニーズを把握し、プログラムに取り入れている。ご家族からのニーズには、ご本人の身体機能から逸脱していない限り取り入れるようにしている。

ご利用者から直接ニーズが聞き取れる例では、余暇活動に使用する手指のピンチ機能維持を行っている。

5. 医学的根拠に基づく介入を行うようにする。

関節可動域測定や、徒手筋力検査など標準化された評価スケールを主に用い、定期的な評価を行っている。

動作分析、作業分析としては動画を使用して分析しやすくし、何がご利用者にとって困難となっている動作なのかを検証するようにしている。

児童に関しても、新しい反応があった際や、集団活動の際などに動画撮影を行うことで、感覚特性や、発達状況をつかみやすくしている。

6. 外部研修への参加による技術の向上に努める。

茨城県地域リハビリテーション専門職員(初任者)研修事業 小児領域 B コースに参加した。知的、発達障がい児へのアプローチ方法を、グループディスカッションを通

じて学んだ。

7. 児童の発達段階に合わせたアプローチをする。

発達段階アセスメントシートを使用し、日々変化する児童の様子を観察評価している。おもちゃ遊びの中で語彙、色、形などの弁別機能、数字の理解、コミュニケーション能力の伸びを評価し、ひとつ上の課題や遊びが行えるように促している。

また、全児童に対して、感覚機能のスクリーニング評価を進めており、情報を整理するようにし感覚遊びの提供に活かしている。

週 1 回月曜日に利用児全体で運動をするプログラムを行っており、定期的な運動発達のスクリーニング評価を行うことができている。

8. 対象者への直接的なリハビリテーションだけでなく、環境調整を必要に応じて担当支援員と相談する。

脳性麻痺のあるご利用者に対する環境調整として、バッグのファスナー部分に O リングを取り付け、スムーズに開閉することができるようにした。

知的障がい児の不適応行動に対する環境調整として、わかりやすい絵カードを作成、配置して自由に見ることができるようにし、不適応行動の修正を促している。

運動コントロールや視覚的に物をとらえることが苦手な児童でも遊ぶことができ、運動発達を促すことができるように風船バドミントンが行える環境を設けた。ゆっくりと動く風船を、児童のペースでラケットにて追いかけ叩くことができている。

放課後デイサービスの広報誌にてリハビリテーション項目を設け、リハ的な目線での発達支援や関わり方を保護者向けに認知する目的に行っている。

今後に向けて

数値化することによって客観的に比較評価をすることができる

児童への定期的な個別リハビリテーションを取り入れることができる

相談支援事業（指定特定相談・基本相談）

<目的>障がいを持つ方が、地域で自分らしく生活することができる為の支援を行う

<目標> 1～5について

1、地域の問題を捉え、地域ケアシステムや自立支援協議会の活用により、福祉サービスが充実し、障がい者の生活がしやすくなり、より豊かになるよう、常に社会資源の広がりや変化について情報を速やかに収集する。	地域資源の把握ではグループホーム（以下 GH）について重点的に行った。地域で GH のオープンが複数あり、各 GH の特徴を把握し、ニーズに対して複数の提案を行うことができた。相談部会では困難ケースについて話し合い、地域課題の洗い出しに繋がり、行政と共有することができた。守谷市障がいサービス事業所連絡協議会（以下障サ連）の防災についての情報交換会に参加し、各事業所の工夫を共有することができた。課題として、自立支援協議会には障サ連を通して間接的な関わりに留まっていたため、今後は直接参加して地域と連携していきたい。
2、ノーマライゼーションの実現に向け、障がい児・者が住み慣れた地域社会で生活が可能となるよう、本人の思いやニーズに基づいた本人中心のサービス計画の作成に努める。	現任者研修後、本人の言葉や表現を計画書にそのまま取り入れ、それに対することを留意事項に記載することを意識して計画を作成した。今後はこの形を標準化していきたい。権利擁護では、A 型事業所が閉所した際に離職票が発行されないケースがあり、ハローワークや補助人（後見制度）と連携して、職権による離職票発行・失業給付金のサポートを行った。
3、連携する事業所と共にチームアプローチや協働による支援を提供する。	月平均 31 件以上の訪問を行い、事業所や本人・家族と連携した。直接顔を合わせ、現場を確認することで、新たな課題の気付きや本人の満足度が伺え、次の目標に繋がった。個別支援会議は月平均 10 件以上行い、チームが揃い支援の確認や目標設定等を共有することができた。
4、キングス・ガーデンの理念に基づき、困難な状況により、生活のし辛さを抱えている対象者に対し、心ある支援の手を差し伸べる事を支援の前提とする。	相談者の思いを受け入れ、決して孤立しないよう、基本相談や関係機関に繋ぎ対応した。基本相談は約 6 ヶ月に 1 回のペースで連絡を取り、生活状況の把握を行った。生活状況が困難になっている場合には、社会福祉課や社会福祉協議会等に協力を依頼した。
5、障がい児の相談支援件数の増加に対応していく。	問い合わせ件数は 11 件あり、7 件の新規契約を行なった。月の件数を越えている場合や他市在住の相談者には、ある程度の見込みを持って他事業所に繋いだ。

守谷市障がい者相談支援センター

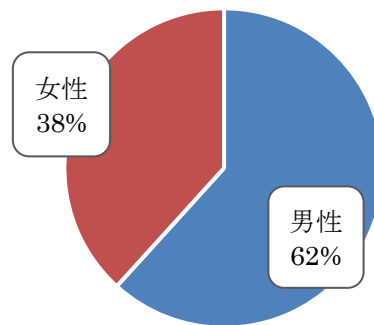
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援登録実人数(者) (基本・計画)			100	101	101	102	102	101	101	101	100	103	101	103	
相談支援登録実人数(児)計画			30	30	30	30	32	33	33	33	33	34	34	37	
サービス計画件数	者	サービス利用支援	5	3	10	9	9	6	4	13	3	8	13	9	92
		継続サービス支援	3	12	5	9	9	9	5	2	7	6	7	7	81
	児	サービス利用支援	6	5	1	6	2	2	3	1	2	1	2	7	38
		継続サービス支援	4	3	2	2	1	7	7	5	0	8	2	4	45
相談 延べ件数と内訳		計画相談	233	290	262	290	241	223	268	282	200	242	216	209	2,956
		基本相談	8	20	34	11	18	18	21	11	10	12	19	17	199
		相談数合計	241	310	296	301	259	241	289	293	210	254	235	226	3,155

【成人】

男女別人数

	人数
男性	54
女性	30
合計	84

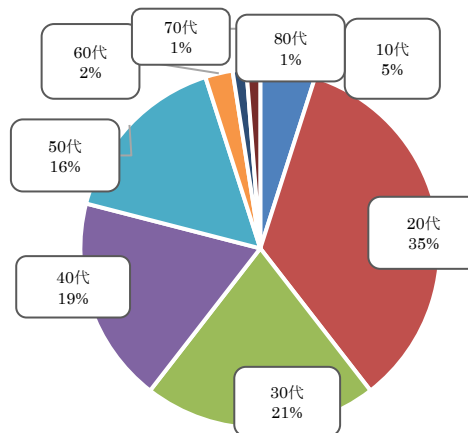
男女比 (成人)



年齢別人数

年齢	人数
10代	5
20代	30
30代	17
40代	15
50代	14
60代	3
70代	0
合計	84

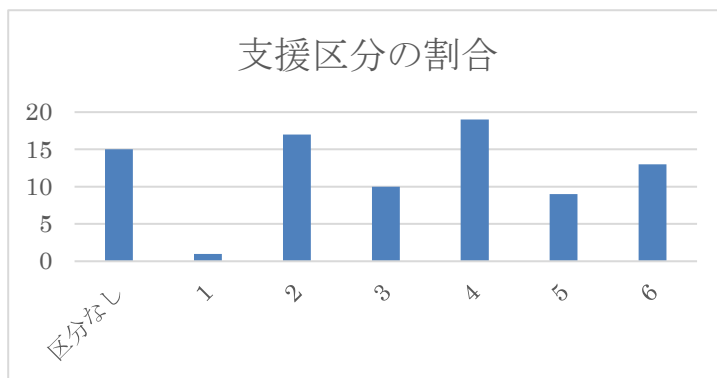
年齢分布 (成人)



支援区分別人数

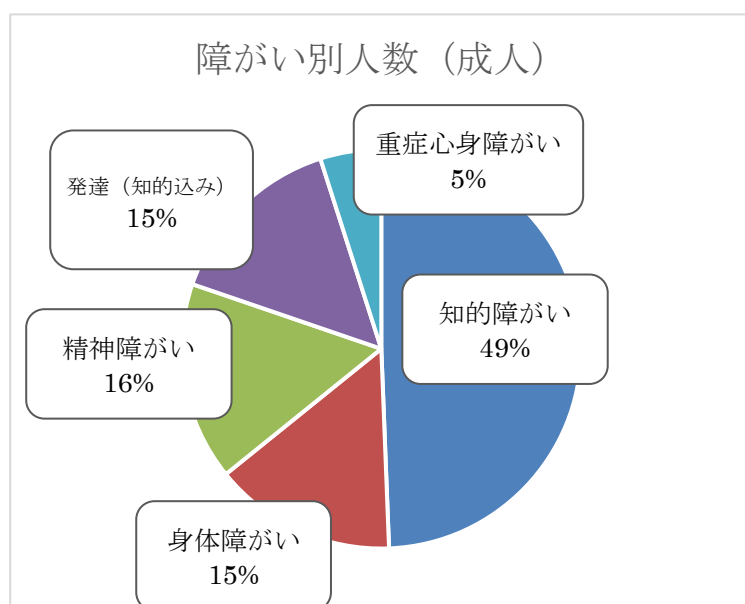
支援区分	人数
区分なし	15
1	1
2	17
3	10
4	19
5	9
6	13

(84 人中)

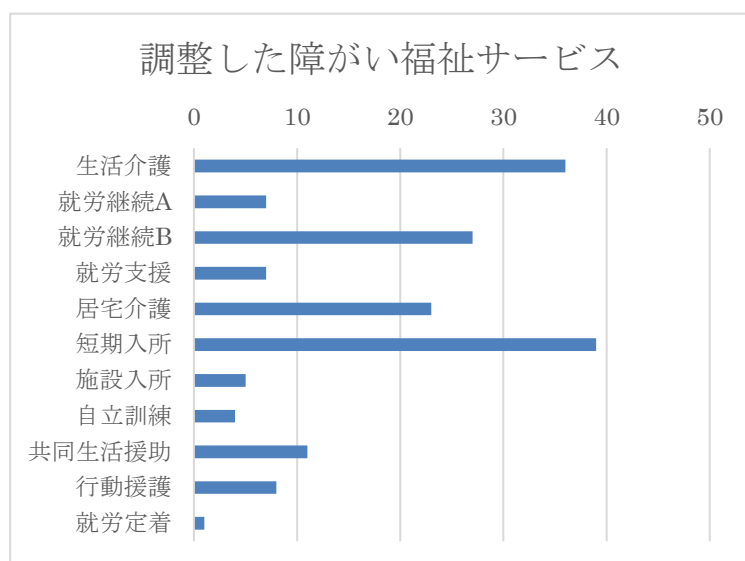


障がい名	人数
知的障がい	41
身体障がい	9
精神障がい	13
発達（知的含む）	16
重症心身障がい	5

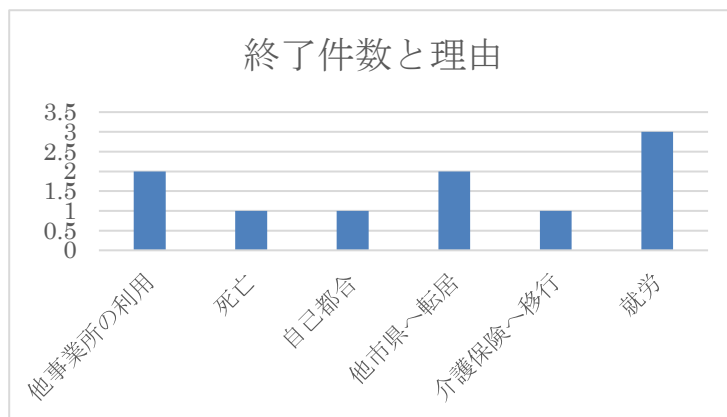
(84 人中)



調整した障害福祉サービス	
生活介護	36
就労継続 A	7
就労継続 B	27
移行支援	7
居宅介護	23
短期入所	39
施設入所	5
自立訓練	4
共同生活援助	11
行動援護	8
就労定着支援	1

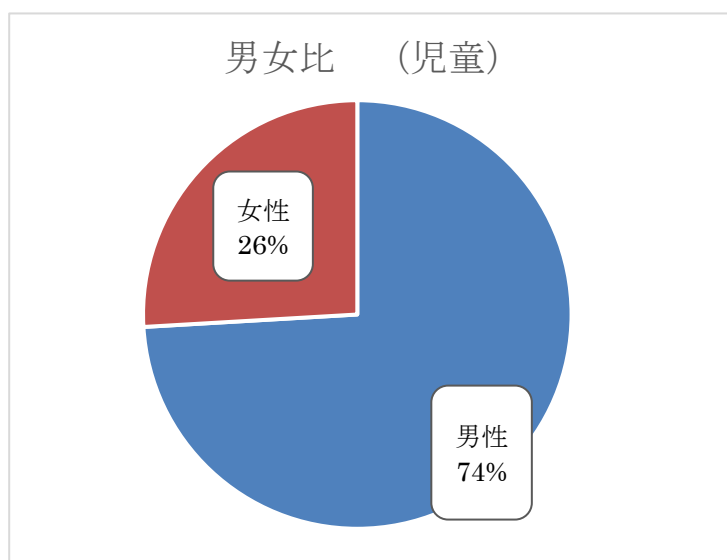


終了理由	件数
他事業所の利用	2
死亡	1
自己都合	1
他市県へ転居	2
介護保険へ移行	1
就労	3

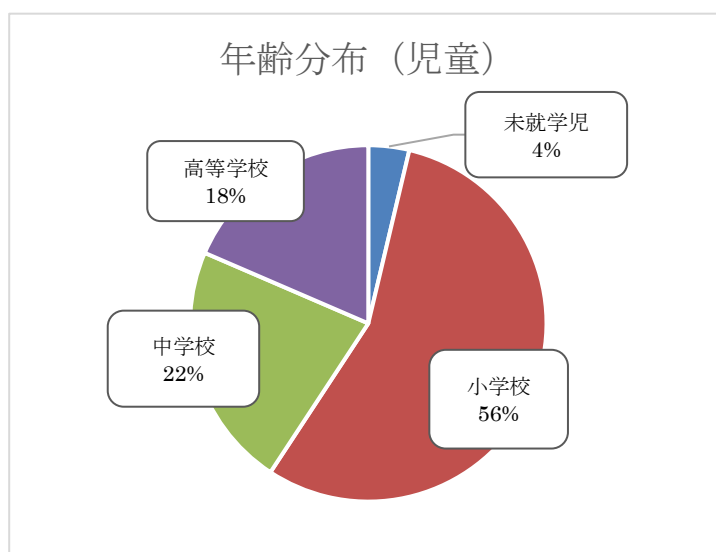


【児童】

男性	29
女性	8
合計	37



年齢	人数
未就学児	1
小学生	23
中学生	11
高校生	2
合計	37



終了件数	
成人へ移行	2
合計	2

【基本相談】

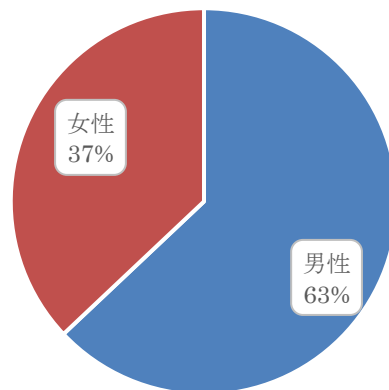
	人数
男性	17
女性	10
合計	27

年齢 (基本相談)	人数
10代	2
20代	6
30代	7
40代	4
50代	6
60代	1
70代	1
80代	0
合計	27

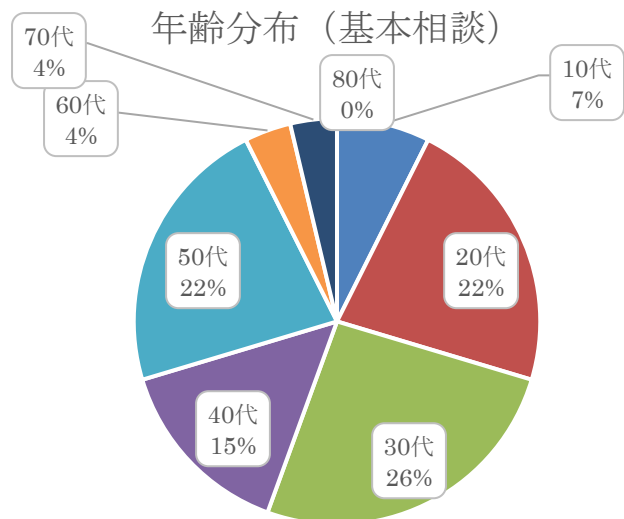
障がい名	人数
知的障がい	7
身体障がい	3
精神障がい	12
発達障がい (知的含む)	4
難病	1

実施した内容
生活状況の確認・訪問
就労相談
不安の傾聴、助言
生活相談
サービスの紹介・調整等
障害年金申請の補助
他機関との調整

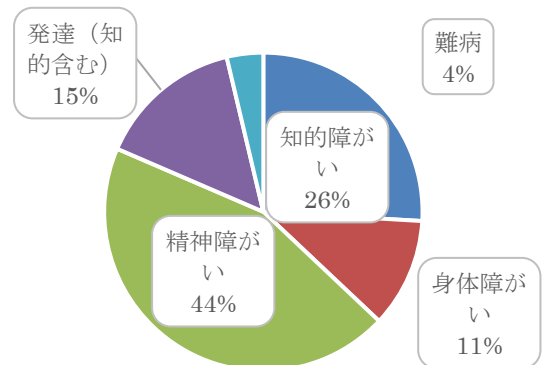
男女比（基本相談）



年齢分布（基本相談）



障がい別人数（基本相談）



【支援方法】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	36	42	40	40	32	20	50	35	27	17	22	18	379
来所相談	30	30	31	21	14	16	19	20	10	24	19	20	254
同行	4	2	5	2	1	2	6	6	2	3	2	0	35
電話相談	68	67	65	61	61	69	75	54	53	66	61	66	766
電子メール	4	17	6	7	8	6	4	6	3	3	7	6	77
個別支援会議	0	7	12	26	10	14	14	5	9	16	14	1	128
関係機関	97	143	136	141	131	113	117	145	102	121	110	114	1470
その他	2	2	1	3	2	1	4	22	4	4	0	1	46
合計	241	310	296	301	259	241	289	293	210	254	235	226	3155

【支援内容】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福祉サービスの利用 に関する支援	196	254	216	230	186	186	225	227	155	209	194	189	2467
障がいや病状の理解 に関する支援	14	10	23	18	2	5	19	15	5	12	15	7	145
健康・医療に関する支援	6	10	12	14	34	25	8	26	32	7	2	12	188
不安解消・情緒安定 に関する支援	1	12	12	9	15	6	12	3	3	0	1	4	78
保育・教育に関する支援	3	0	0	5	1	6	2	0	0	0	0	0	17
家族関係・人間関係 に関する支援	4	10	3	11	13	5	5	5	6	5	3	2	72
家計・経済に関する支援	8	3	8	7	1	1	10	3	0	5	7	1	54
生活技術に関する支援	1	2	2	2	3	4	7	9	5	0	1	0	36
就労に関する支援	4	3	18	2	2	3	0	4	2	12	10	0	60
社会参加・余暇活動 に関する支援	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
権利擁護に関する支援	4	5	2	0	0	0	1	1	0	3	2	11	29
その他	0	1	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	6
合計	241	310	296	301	259	241	289	293	210	254	235	226	3155

表 1

2019（令和元）年度 会議等		
月	日	会議名
4月	10日	辞令交付式
	13日	高野こいのぼりまつり 説明会
	16日	保護者会総会
	22日	伊奈特別支援学校駐車場説明会
	23日	協力牧師会①
	24日	合同運動会会議
5月	23日	平成31年度社会福祉法人・施設一般検査に係る説明会
	27日	職員健康診断 産業医面談
	29日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会総会
	29日	法人監事監査
6月	6日	理事会
	11日	茨城県心身障害者福祉協会総会
	12日	サマーフェスティバル 準備会議①
	14日	常総いこいの郷フェスタ 説明会
	21日	評議員会
	21日	買ってNet バザー（守谷イオンタウン）会議
	10日	サマーフェスティバル 準備会議②
7月	17日	KG関東3法人 施設長会議
	17日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会定例会
	5日	北守谷公民館まつり 準備会議①
8月	12日	放課後等デイサービス 親子体験会 保護者懇談会
	19日	サマーフェスティバル 準備会議③
	20日	第三者評価 就労継続B型利用者面談
	13日	KGバザー会議①
9月	18日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会定例会
	20日	第三者評価 訪問調査
	16日	北守谷公民館まつり 協力部門会議
10月	17日	理事会
	18日	協力牧師会②
	18日	北守谷公民館まつり 作品展示部門会議
	24日	KGバザー会議②
	28日	第三者評価 講評

月	日	会議名
11月	6日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会定例会
	8日	KGバザー会議③
	11日	北守谷公民館まつり 全体会議
12月	3.6.9	茨城県ナイスハートフェスティバル手伝い
	9日	KG関東3法人 施設長会議
	16日	災害時対応の情報共有会議
	16日	守谷消防署 立ち入り検査
	19日	理事会
1月	27日	職員年末感謝会
	9日	守谷市賀詞交歓会
	22日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会定例会
	29日	北守谷公民館まつり会議
2月	30日	茨城県心身障害者福祉協会 施設長会議
	16日	守谷市公園里親代表者会議
	20日	KG関東3法人施設長会議
3月	26日	理事会（書面決議）

	職員会議	KG施設長会議	KG事務ミーティング	KGリハ職ミーティング
4月	12日	26日	25日	11日
5月	17日	31日	30日	8日
6月	14日	28日	27日	18日
7月	12日	12日	25日	16日
8月	9日	30日	22日	20日
9月	13日	19日	-	17日
10月	18日	15日	31日	-
11月	15日	29日	28日	19日
12月	13日	19日	26日	6日
1月	17日	31日	30日	21日

表 3

2019（令和元）年度 全体・各班行事		
	日	行事名
4 月	2 日	立沢公園お花見・誕生会
	4 日	新規ご利用者歓迎会
	16 日	トランポリン
	22 日	パステル（就労班）
5 月	3 日	高野こいのぼりまつり
	8 日	友近 890（やっくん）訪問ミニコンサート
	21 日	KG 合同運動会（雨のため中止・ミニ運動会）
	24 日	つくばへ遠足（ねっこ・わかば班）
	22 日	パステル（就労班）
	27 日	守谷駅前花壇整備
	27 日	大正琴演奏会
6 月	3 日	守谷 SA へ外食（みのり班）
	12 日	図書館お話し会（どんぐり班）
	18 日	トランポリン（就労班）
	19 日	あけぼの山農業公園あじさい鑑賞（ねっこ班）
	21 日	いもほり
	25 日	パステル（就労班）
	29 日	常総いこいの郷フェスタ
7 月	6 日	買って Net バザール（イオンタウンバザー）
	8 日	給食試食会（家族）
	16 日	職場見学 ポニーの家（就労班）
	16-26	守谷市役所ロビー 作品展示
	23 日	パステル（就労班）
	24 日	キャンドル作り（みのり班）
	26 日	モリヤガーレ外出（ねっこ・わかば班）
	31 日	フラダンス訪問
8 月	7 日	すいか割り
	9 日	モリヤガーレ外出（ねっこ・わかば班）
	12 日	放課後等デイサービス 親子体験会 保護者懇談会
	14 日	風鈴づくり（みのり班）
	15 日	夏祭り
	22 日	お話し会（どんぐり班）
	23 日	KG サマーフェスティバル
	27 日	モリヤガーレ外出（ねっこ・わかば班）
	27 日	パステル（就労班）
9 月	9 日・	アートコラボ展開催（ぶどうの木）
	14 日	アートコラボ展ステージ（ぶどうの木）

表 4

	回診	誕生会
4 月	25 日	2 日
5 月	23 日	28 日
6 月	20 日	18 日
7 月	18 日	12 日
8 月	-	15 日
9 月	-	30 日
10 月	-	3 日
11 月	7・21	13 日
12 月	19 日	24 日
1 月	16 日	23 日
2 月	20 日	14 日
3 月	19 日	20 日

9 月	23 日	下妻散策（ねっこ・わかば班）
	24 日	パスボムづくり（みのり班）
10 月	4 日	なめがたファーマーズヴィレッジ遠足（就労班）
	14 日	ひこうせん運動会
	29 日	パステル（就労班）
	31 日	バーベキュー（もりや学びの里）
11 月	5 日	大正琴ボランティア演奏
	6 日	ハンバーグづくり（みのり班）
	23 日	KG バザー
	27 日	パステル
12 月	3 日	KG ぶどうの木 喫食
	17 日	クリスマス会
	20 日	ランチ忘年会（ねっこ・わかば班）
	20 日	パステル（就労班）
	28-1/5	年末年始閉所
1 月	13 日	ひこうせん成人式
	16 日	年始お楽しみ会
	23 日	パステル
	30 日	おやつづくり
2 月	14 日	北守谷公民館まつり 開会式
	21 日	お話し会（放課後デイ）
	22 日	北守谷公民館ふれあいまつり出店（中止）
3 月	10 日	ねっこ・わかば班 食事会（センター内）
	14 日	ひこうせんまつり（中止）
	25 日	みのり班 ケーキバイキング
	26 日	就労班お疲れ会（センター内）

表 5 2019（令和元）年度 職員研修・見学実績報告

No	月	日	研修名	主催	参加者数
1	4 月	10 日	KG 連合 合同園内研修	日本キングス・ガーデン	25
2	6 月	12 日	～働き方改革関連法施行～介護事業所の対処法セミナー	介護労働安定センター 茨城支部	1
3		14 日	2019 年度 算定基礎届事務講習会	社会保険事務所	1
4		26 日	RICOH 新時代の企業生産性を確信する ICT と働き方改革	RICOH ジャパン	1
5	7 月	8 日	2019 年度サービス管理責任者等研修受講資格取得研修	茨城県（心身協）	1
		9 日			
6		9 日	経営者向け・2019 年度 公的支援制度活用説明会 ～人手不足時代の中小企業の対策方法～	茨城 J マッチ	1
7		17 日	KG 連合 中堅者研修	日本キングス・ガーデン連合	1

8	7 月	23 日	就業支援基礎研修①②	茨城障害者職業センター	1
		24 日			
		29 日			
9		25 日	普通救命救急講習	常総広域消防署	1
10		30 日	雇用管理責任者講習	介護労働安定センター茨城支部	1
11	8 月	22 日	感染症研修会	竜ヶ崎保健所	1
12		29 日	相談支援部会意見交換会	いなしきハートフルセンター	1
13	9 月	5 日	令和元年度第 2 回茨城県強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)	茨城県（心身協）	1
		6 日			
14		11 日	普通救命救急講習	常総広域消防署	1
15		17 日	サービス管理責任者基礎研修 1 日目 A 日程	茨城県	1
16		21 日	第 19 回茨城県自閉症児者支援専門職員養成研修会	茨城県発達障害者福祉センター	1
		22 日			
		23 日			
17		23 日	心肺蘇生法研修（事業所内）	ひこうせん	20
		24 日			
18		27 日	働き方改革いばらきセミナー2019	茨城県労働局	1
19		27 日	日本キングス・ガーデン連合研修	日本キングス・ガーデン連合	4
		28 日			
20	10 月	10 日	安全運転管理者講習会	茨城県交通安全協会	1
21		16 日	令和元年度第 1 回 茨城県障害者虐待防止・権利擁護研修	茨城県保健福祉部	1
22		18 日	発達障がいのある子どもの見え方、感じ方、疑似体験	守谷障サ連	2
23		23 日	ナイスハートフェスティバル 2019 美術部会研修会	茨城県（心身協）	1
24	11 月	6 日	守谷市障がい福祉サービス事業所連絡協議会 研修会	守谷障サ連	3
25		18 日	2019 年度サービス管理責任者等研修「実践研修」	茨城県（心身協）	1
		19 日			
26	12 月	20 日	令和元年度第 2 回茨城県障害者虐待防止・権利擁護研修（管理者対象）	茨城県保健福祉部	1
27		21 日	茨城県地域リハビリテーション専門職員（初任者）	茨城県地域リハビリテーション支援センター	1
		22 日	小児分野コース		
28	1 月	16 日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	しかくの学校	1
		17 日			
29	2 月	6 日	令和元年度竜ヶ崎保健所管轄内相談支援部会意見交換会	いなしきハートフルセンター	2
30		9 日	第 12 回 茨城県作業療法学会	茨城県作業療法士会	1
31		12 日	年金委員・健康保険委員研修会	全国健康保険協会茨城支部	1
32		20 日	令和元年度第 3 回茨城県強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)	茨城県（心身協）	1
		21 日			
33		22 日	相談支援専門員現任者研修	茨城県（茨城県社会福祉士会）	2
		23 日			
	24 日				

延べ 84 名